まえへ9曲　うしろへ9曲

デジタル選曲

マイクロコンピューター搭載。どこまで進化するのかラジオカセット。

メタル&フェザータッチ



マイクロコンピューター
ステレオ パディスコ 8800

TRK-8800 ¥84,800

●高級デッキなみの操作感覚フェザータッチ ●2モーターシステムが可能にした高精度回転ワウ・フラッター0.06%(W.R.M.S) ●メタルテープの性能をフルに引き出すメタル対応ヘッド搭載 ●曲の頭出し思いのまま、繰り返し聞けるリピートデジタル選曲機構 ●テープを初めから終わりまで繰り返し自動演奏するオートリワインドプレイ機構

●2ウェイ・4スピーカーシステム(16cmウーハー×2+5cmツイーター×2) ●実用最大出力10W(5W+5W) EIAJ/DC ●大きさ 幅55.6×高さ31.8×奥行17.3(cm) ●重さ 8kg(乾電池含む)

★選曲のために、曲と曲との間に3秒間以上の無信号部分が必要です。



くらしを豊かに…
「日立新技術シリーズ」

日立の新技術・新アイデアから生まれた代表商品です。このエレクトロニクスの基本技術は、日立カセットレコーダーに共通して生かされています。



品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI RADIO CASSETTE RECORDER

HITACHI

上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い日立のクレジット

●日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。●日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり大切に保存してください。

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。
★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

オリンピックチーム、爽やかに"解団"

栄光の「オリンピック・チーム」は、ともすれば悲しさ、淋しさが漂よいがちな場内のムードを、モスクワの檜舞台で見せたであろうスピード豊かな＜技＞と豪快な＜力＞によって吹きとばし、四千近い観衆の歓声のなかで爽やかに"解団"した——モスクワ・オリンピック代表に決まりながら「不参加」（JOC決定=本誌前号既報）の悲運に見舞われた「オリンピック・チーム」を囲む集いが、日本協会主催によって、6月21日午後2時15分から東京体育館で行われ、「オリンピック・チーム」は、日本協会から記念品を贈られたあと、第8回世界学生選手権候補チームと対戦、圧倒的な攻守で快勝してみせ、唯一の公式行事を終えた。

オリンピック・チーム 31(19—10 / 12—6)16 第8回世界学生選手権候補

○…試合が始っても、なおしばらくは、スタンドが動いた。あとからあとから観衆が詰めかけたのだ。

ハンドボール愛好者、スポーツファンが、苦労に苦労を重ねてアジア大陸代表権を握り、晴れのオリンピック代表選手となりながら空しく解散しなければならぬ男子ハンドボール・チームに、励ましとねぎらいの声援を送りに来てくれたのである。

○…試合前の"表彰式"。君ケ代行進曲にのって入場する選手たちの表情は、もう一つ、冴えがなかった。沈痛な顔の行列であった。

木野実、本田洋、飯田信行、加藤美紀子、穂積美保子といったミュンヘン、モントリオールのオリンピック代表選手の手から全員に記念品が贈られ、"地元"の蒲生に母校の中大付属高から花束が届けられてもスポーツのセレモニイとは思えぬ静かな雰囲気で過ぎた。

○…胸を借りたハズの学生チームが、10分5—2と「オリンピック・チーム」をリードする。

目標を失ったチームと、目的に向かうチームの対照が浮き出たものだ。

だが、3階席まで埋まりはじめた観衆の"無言の声援"を「オリンピック・チーム」が感ぜぬわけがない。

ルーズボールに身体を投げかけて奪うキャプテン・津川の闘志が消沈していた気持ちに火をつけた。

○…大原の鮮やかな切れこみと多彩な射ち分け、池之上の高打点攻撃、斉藤将の驚くべき突進力……。

モスクワのディナモ・スポーツホールで、ソコルニキスポーツパレスで、西ドイツを、ユーゴを、デンマークを相手に発揮したであろう巧技、妙技、快技が、次々ととび出した。

後半、僚友・井藤が、相手ゴールに立つという異例の選手交代にも、容しゃない攻撃が仕掛けられる。斉藤幸の空中アンダーショット、全員のみせるバックハンドパス攻法、そしてしめくくりは必殺技・ダブルスカイプレーだ。

ヒザを痛めていたエース蒲生の出番こそなかったが「オリンピック・チーム」の猛攻は、すべての人のもやもやを一気に吹きとばした。

選手たちにも、試合前の沈んだ表情はすでになかった。

○…試合終了と同時に、練習の汗にまみれたボールが、次々とスタンドへ投げこまれた。

それは"解散"の儀式ではなかった。「オリンピック・チーム」の伝統を、あとにつづく若いハンドボーラーたちに、力強くうけついでもらおうという願いをこめての"祝典"であった。

そしてそのあと、サインを求める人の列が1時間近くも選手たちを囲みつづけた。

力強く描かれるペンの先に黒々と「オリンピック選手」の文字が躍っていた……。

○…なお、この試合に先だって全日本女子（中国遠征メンバー）が、関東実業団選抜と公開試合を行ない、立ちあがり、いきなり6—0とし、そのままのペースで完勝した。

中国遠征全日本女子 16(9—6 / 7—4)10 関東実業団選抜

＜得点者＞【日】島田(日立)5 西(大崎)、姫野(立石)、山村(ブ工)、辻本(ジャ)各2、染谷(日ビ)、桑原(立石)、水上(日立)各1 【関】石井(大崎)4、志村(日ビ)2、大高(日立)、村上(日ビ)、沖山(重機)、川本(重機)各1

得	【五輪代表】		【世界学生候補】	得
0	井藤(日体大)	GK	上村(中京)	0
0	大畑(本田技)	GK	井藤(日体)	0
0	福井(湧永)	GK	矢島(筑波)	2
6	津川(湧永)	FP	西山(筑波)	5
4	大原(大同)	FP	玉村(大体大)	1
5	斉藤将(湯沢ク)	FP	吉井(早稲田)	3
5	山本(湧永)	FP	猪野(中央)	2
1	斉藤幸(大崎)	FP	尾上(中央)	1
7	池之上(大同)	FP	檜原(大工大)	0
0	志賀(湧永)	FP	佐々木(日体)	1
0	中本(湧永)	FP	市川(京産大)	0
3	関(三陽)	FP	山本(大体大)	0
0	蒲生(大同)	FP	東根(早稲田)	0
	穂積(湧永)病欠	(審・斉藤 大塚)	栗尾(同志社)	0
			片山(中京)	0
			植村(早稲田)	1
			柏原(福岡大)	0
31	(1)	PT	(0)	16

『ハンドボール』

55年7月号(第187号)目次

【表紙写真】男子オリンピック選手を囲む集いで場内に紹介される「モスクワ・オリンピックチーム」。（6月21日・東京体育館）

【スポーツイベント提供】

明後年の世界選手権

日本男子、アジア大陸予選免除か

近着の西ドイツ「週刊ハンドボール」誌は、一九八二年二月二十三日から三月七日まで西ドイツで開かれる第10回世界男子選手権Aグループに、日本はアジア大陸第1代表として、すでに出場権が確保されていると伝えている。

同誌によると、この大会は16カ国が参加、その内訳はモスクワ・オリンピックの上位7カ国、来年2月フランスで行われる第3回世界選手権Bグループの上位4カ国アジア大陸代表2カ国、アメリカ大陸代表1カ国、アフリカ大陸代表1カ国、開催国1カ国（西ドイツ）で、史上初めて2カ国となったアジア代表のうち1カ国は日本に確定している。

アジア大陸代表が2カ国となり日本へすでに出場権が与えられているのは、前回の12位以内に日本が入選している実績によるという。

IHF（国際ハンドボール連盟）から日本協会へは、このような通達は、6月25日現在とどいていないが、これが事実なら、日本チームは、来年のアジア大陸予選（詳細未定）を免除されることになりその分、強化に集中できる。◇

○…一昨年の世界選手権で日本が12位に食いこんだ直後から、次回のアジア大陸代表が2カ国になることは伝えられていたが、公式文書はなく、日本協会も半信半疑だった。

今回の西ドイツ誌の報道は、この噂を肯定したばかりか、そのうちの1カ国が日本であると明示している。事実なら日本協会にとって朗報である。

常識的には、第10回大会の予選は、来年秋までに完了しなければならず、男子ナショナルチームの再編成必至だけに、強化期間の短かさが苦慮されていた。

また、モスクワを目指したオリンピックチームが、そのまま、世界選手権に臨めるようなら、充分な休養のあと来年1年間をフルに"強化"にあてることもでき、モスクワの目標であった6～8位内入賞を、いっそう有望にさせられる。

日本協会強化筋では、7月のIHF総会で、事実の確認をするとしているが、開催国西ドイツの専門誌が伝えるニュースだけに、信ぴょう性は高いとみられる。

なお、このニュースによって、モスクワ・オリンピック不参加から、いちぢ、世界選手権の開催を返上するのではないかとみられた西ドイツが、予定どおり、同大会のホスト国になることも、明きらかとなった。

各大陸もグループ選手権を
COC委員長が示唆

国際ハンドボール界の今後の方向づけを行なうIHF（国際ハンドボール連盟）の第18回通常総会が、7月15日から17日までモスクワのロモノショフ大学で開かれ、日本協会は荒川清美理事長らの出席を予定している。

近年、ハンドボールがヨーロッパのスポーツから大きく脱皮、グローバルな視点での議題が、総会ごとに多くなり、特にアジア、アフリカ、アメリカ各大陸に関する問題も増えつつある。

今回も、この3大陸から各1名のIHF副会長を選出することが確定的と伝えられているほか、ヨーロッパ地域外にも影響のある議題がかなり用意されているようだ。

総会を前に、各国協会や報道関係者に配布された専門委員長報告（スピーチ原稿）のなかで、特に注目されるのは世界選手権の運営についての提案だ。

現在の世界選手権は、男子がA、B、Cの三グループ、女子がA、Bの二グループに分けられているが、B以下は、ヨーロッパ地域だけのもので、アジア、アフリカ、アメリカ各大陸の代表は、直接、Aグループに参加できる。

この方法については、施行当初から、一部のヨーロッパの国で不満がもれていたが、今回、スペイン協会が、改善を公式提案しているほか、IHF・COC（組織・競技委員会）のC・ワドマーク委員長（スウェーデン）が、アジア大陸などでも大陸別のB、Cグループ選手権を行うよう示唆しているのは興味深い。

アジア大陸に例をとると、現在17を数えるIHF加盟国（仮盟の中国を含む）を、実力別にA、BまたはA、B、Cに分け、アジア選手権Aグループの優勝国を、世界選手権Aグループへ送りこめというものだ。

強化委員に井、鈴木氏

日本協会強化部は、このほど強化委員に井薫、鈴木義男の両元全日本女子監督を加えることを決めた。これで強化委員は、十四名となった。井氏は女子コーチ群入りを望まれていたが、強化委員として頂点強化事業に参画することになり、コーチ群には加わらない。

世界学生選手権候補など決める

全日本学連

55年度第一回全日本学生ハンドボール連盟総合役員会は、6月8日(日)10時30分から東京・岸記念体育会館で開催、内海倫会長から会長推薦理事（8名）が次の通り発表された。

中沢重夫・田中秀夫・久保義雄・久田暁・藤原侑・大西武三・岡田修・平岡秀雄(新任)。

全日本学連理事はこの8氏と地区連盟選出理事8名で構成され、ただちに理事長の選出に入り、中沢重夫氏が再任され本年度も、その任に当って戴く事を決定した。

このほか、副会長に藤松博氏、顧問に山崎剛氏を再任、これまで理事で長い間ご苦労願った滝口三郎氏（明大出）を参与へ推薦、委嘱する事にした。

又昨年と同様全日本学連主催大会の開催地区学連会長はその大会中全日本学連副会長をお願いする事とした。又昨年議事了承していた専門委員会は、まず競技(技術)及審判の2部門から出来るだけ早い時期に組織化し発足する事にした。

今年度最大の行事ともいうべき第8回世界学生ハンドボール選手権については、前回の会議で決めた通り、具体的に準備が進んでいることが報告され、参加候補選手も全国各地区学連より推薦を受けた25名の候補選手（後掲）がリストアップされ、いつでもスタート出来る状態となっている。

ただし、日本協会から、今大会派遣についてジュニア強化の一環として大会参加をしたい意向があった事が報告され、これについて審議、多くの意見が出されたが、内海会長よりの助言もあり、学連として元来からこの大会参加して来た状況、学生の立場やその理念を学連の既定方針として、日本協会に伝え、それを理解して貰う様中沢理事長に一任する事とした。

なお藤原理事より25名の候補選手のほか、数名の追加をコーチングスタッフに委せて欲しい旨の発言があり了承した。

全日本学生選手権の女子参加チーム数については、16校に制限することに決定（注・男子は24校。既報）。内訳は東日本、西日本学生選手権上位より各4チーム（但し西日本で大会が開かれる場合は東日本は上位3チーム、逆に東日本で開かれる場合は西日本3チームとする）。

各地区学連より1チームづつ、開催地1チームと決めた。なお、試合方式は男女ともトーナメント方式で行なう。

また、明年の第3回東日本学生選手権は山梨県甲府市で8月18日から開く事を山梨県協会へお願いする事とした。

○…第8回世界学生選手権候補選手…○

▽GK　井藤英忠(日体)、上村幸彦(中京)、中尾順一（大経大）

▽FP　村崎広、植村彰、吉井勝則、東根明人、菊島功（以上早稲田）、池田靖、溝部潔、佐々木功(以上日体)、猪野栄一、尾上良生(以上中央)、矢島富士雄、西山清(以上筑波大)、玉村健次、山本興道(以上大阪体大)、田野好晃、市川修(以上京都産大)、三木松俊雄(国士館)、粟屋敏則(同志社)、片山昭代(中京)、纐纈誠(名城)、楢原隆夫(久工大)、柏原卓幸(福岡大)

委員長に安藤純光氏再選

日本リーグ運営委員会

日本リーグは、6月1日東京で運営委員会を開き、今年度の運営委員名簿を承認した。

それによると、委員長の安藤純光氏(日本協会)、副委員長の岡前義春氏(日本協会)、山田稔氏（日本協会）が重任、新たに横地正厚氏に代って横地宇吉氏（ブラザー工業）が選出された。

岡前副委員長はこれまでどおり表彰、審判を担当するが、山田副委員長は広報、スケジュール、横地副委員長は総務企画、財務と担当替えが行われた。常任運営委員は5氏が重任、佐藤章治（大崎電気）、山中喜作（日立栃木）、寺垣俊彦（北国銀行）の3氏が新任された。

○…55年度日本リーグ運営委員会…○

▽委員長　安藤純光▽副委員長　山田稔、岡前義春、横地宇吉（ブラザー工業）▽常任委員　横地正厚、西村亮治(大同特殊鋼)、西村孝雄(湧永薬品)、佐藤章治（大崎電気)、砂原睦雄（立石電機)、片倉和雄(日本ビクター)、山中喜作(日立栃木)、寺垣俊彦(北国銀行)

▽委員　島崎政治（大阪イーグルス)、陶山捷一（三陽商会)、川岡成徳(日新製鋼)、中田隆一（本田技研鈴鹿)、外海信雄(ジャスコ)、河辺徹夫(東京重機工業)、荒井正人(大崎電気)、吉近正幸(三景)、稲住晋二(トヨタ東体)、小松重夫(自衛隊勝田)、里旭（セントラル自動車)、岩嶋賢（日鉄建材)、坂口晋(大和銀行)、田口侑義（ムネカタ)、浅里幸生(和歌山県商工信用組合)

全日本男子の欧州転戦（来春2月）を計画

日本協会月例常務理事会は、6月21日日本協会（東京）で開かれた。

午後別掲（7頁）のような財団法人設立許可申請の経過の報告があったあと、男子ナショナルチームの特別海外派遣事業とクラブ連盟設立問題等について審議がなされた。

◇男子ナショナルの海外派遣　特別海外派遣事業の問題は、今回日本体育協会が各競技団体に打診している特別国際交流事業の一環として、日本協会も男子ナショナルチームを海外に派遣すべきであるという企画部案である。

去る五月の全国理事会でも、モスクワオリンピック不参加問題が決着ついた段階で、オリンピック代表選手団を特別に海外に派遣し次のオリンピックへの第一歩とすべきであるという意見も出されていた。

日本協会では、今秋十月には男女ナショナルチームを朝鮮民主々義人民共和国（北朝鮮）に、来年二月には、クウェートで行なわれる国際トーナメントに男子ナショナルチームを派遣することを決めていたが、当日の常務理事会では、クウェートから、西ドイツ、オランダ、スイス、オーストリーなど西欧主要国を遠征する計画を承認し、日本体育協会の計画と合わせながら関係各国と交渉することになった。

◇クラブ連盟設立問題　クラブ競技大会の関係者と日本協会普及指導部で協議がなされてきた「クラブ連盟」設立の問題について現段階における日本協会の態度をはっきりさせておく必要からこの日の議題になった。

クラブチームの組織化は、クラブチームを日本リーグ、実連、教職員連盟、自衛隊連盟など社会人の連盟組織、さらに学連、高体連など学生連盟組織との関連において、どのように位置づけるかの問題として従来から議論がなされてきた。

各連盟の枠を外して、ヨーロッパ型の純粋の地域割にし、各地域のクラブチームが予選を経て全国大会に出る、あるいは横断的に一部リーグ、二部リーグ、………を設けるのが理想の形とされているが、日本の伝統的なタテ割の枠は、一朝一夕にして崩せるものではない。

そこへさらに「クラブ連盟」を設立して日本協会傘下におくことは、日本のハンドボール組織の体系を益々複雑にする。日本リーグチームの国体参加資格問題と同様の問題も生じてくる。

そこで、全国のクラブチームとその組織の実態をもっと掘り下げて把握し、それに応じて慎重に対処することになった。

（大野金一・総務担当常務理事）

―教職員連盟主催の研修会―
発表者を募集中

全日本教職員連盟では、毎年、全日本教職員選手権大会中に「ハンドボール研修会」を実施しているが、今年度も8月7日午後4時から、滋賀県彦根市、彦根市民会館で開くことになり左記の要領で発表者を募集している。

毎年、発表者によって〈紀要〉を作成、一度だけの発表に終らず今後の資料として残すことが計画されている。

○……申しこみ要領……○

▽発表者、特に問わず

▽申しこみ、55年7月17日までに埼玉県戸田市新曽一〇九三　埼玉県立戸田高校内、全日本教職連盟（〒三三五）あて、

発表テーマ（題目）をそえることが原則だが、未定の場合は、発表する由だけをハガキ、TEL（0484―42―4963）で連絡下さい。

▽発表期日　8月7日午後4時〜
彦根市、彦根市民会館

▽紀要原稿の作成について
発表者には、連盟から紀要用の原稿用紙を送ります。

尚、昨年の紀要（第2集）が残っておりますので希望者は申込み下さい。

全日本自衛隊は9月5日から

全日本自衛隊連盟は、未定だった第12回全日本自衛隊選手権を、9月5日から9日までの5日間、東京・駒沢体育館で開くことに決めた。

大会は男子選手権のほか、武山（陸）、江田島（海）、熊谷（空）の3チームによる少年の部、35才以上の壮年の部、女子の部が行われる予定。

少年の部を除く参加申しこみは7月20日までに全日本自衛隊連盟（福島市荒井原宿一、自衛隊第11施設群、富永劭氏気付）まで。

世界の競技人口370万

IHF（国際ハンドボール連盟）は、4年ごとに集計する世界の競技人口を発表した。

それによると、今春一月現在で総人口は三、七二一、三〇六人、4年前の調査より約九〇万人の増を示している。

日本協会専門委員会だより

総務（財団法人）

財団法人・日本ハンドボール協会設立準備会（代表・斎藤英四郎日本協会長）は、6月11日正式に文部省に財団法人設立許可の申請をした。

許可申請には、財団法人の寄付行為のほか、最初の二年間の収支予算書、事業計画書寄付財産の裏付になる書類、現在の日本協会の過去三年間の理事会審議事項、事業報告書、決算書、全大会記録など膨大な資料の作成添付を求められる。

基本財産については、五千万円の目標（昭和五六年三月まで）のところまだ三千万円余であるが、事実上申請中ということで、文部省の昭和五四年度までの旧基準三千万円を基本に申請してある。

理事の数については、文部省ではここ三年来二〇名を限度としているとのことである。理事の責任問題にからんで、国会でも理事に対する制限が論議されているので数についても厳格にしているということである。

最近財団法人という資格、名称を悪用して収益事業を行う「企業」が横行しているので設立の許可を厳格にたるのは理解できるが、既存の日本体育協会加盟の競技団体を法人にして責任体制を明確にしようとするのが文部省日本体育協会の指導方針の筈であるが、文部省としては、その許可をした公益法人か何か問題を起こした場合の文部省自身の責任を問題にしているのであろう。

ともあれ、本誌前号（一八六号）でも触れたとおり、新財団の中で理事をどのように位置づけていくかが課題である。

業務理事が雑用にいたるまで一切分担せざるを得なかった日本協会の現状は少なくとも変えざるを得ない。理事の数も常務理事の数も半減し、しかも理事はどちらかというと最終の責任主体に過ぎないとなると、日本の業務は一体誰が処理するのか。これが基本財産数千万円に過ぎない競技団体の悩みであろう。

事務局の整備強化は避けられない。金はかかっても、ハンドボールを普及発展させていくためにはやらなければならない。

あとは、ハンドボール愛好者の現代では稀薄になりがちな奉仕的精神（手弁当精神）に俟たざるを得ない。（大野金一・財団設立発起人）

日本協会専門委員会だより

普及指導部

昭和55年度（財）日本体育協会公認ハンドボール競技コーチ養成専門講習会の受付けが〆切られ35名の受講者がリストアップされた。

本講習会は、（財）日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づき、全国各地で活躍たるスポーツ指導者の中核となりスポーツ活動を実践しているグループやクラブを対象にスポーツ技術の専門的指導と活動組織の育成、指導にあたる者（コーチ）や、各都道府県で行なう指導者育成の指導にあたるとともにスポーツの新たな技術の研究開発や高度な水準の競技者の技術指導を行なう者（上級コーチ）の養成を目的に実施するものである。

実施方法は延8ケ月間の通信教育形式による共通教科課程と昭和56年2月10日（火）〜15日（日）の6日間、東京オリンピック記念青少年総合センターで開かれる専門教科課程とに分かれている。

以上の共通教科課程と専門教科課程のいずれもの指定カリキュラムを履修し、かつそれぞれの所定検定試験に合格した者については（財）日本体育協会公認スポーツ指導者制度において、公認コーチ養成コースの修了者とみなされ、修了証が授与される。

ただし既存の有資格スポーツトレーナーの場合優遇措置を行なうコーチ養成コースの場合、公認スポーツトレーナー一級有資格者は新制度の「コーチ」へ移行し、公認スポーツトレーナー二級有資格者に共通教科課程の受講を免除する。

▽受講者

本田娟一、奥原強之、村松誠、千野恒夫、田中秀和、川西良広、日武康磨、佐伯紘一、増田雅夫、江成元伸、笹倉清則、船越雅彦、岡本研二、北岡大覚、新井田司、佐々木英明、柳本英雄、笠原利宏、福井孝明、八木弘信、濱野信一、池田修、一宮昌平、高野亮、森安明雄、土屋基、志々場修二、綿貫敏雄、佃幸太郎、山口毅、伊藤宏幸、井手和洋、谷口俊郎、船江昭光、田村和夫、以上申込順

○…普及指導部では、今後第三回第四回と継続して本講習会を開催する予定でおります。全国の指導者全員が公認コーチを目差していただけることを希望致します。

ソ連、男女ともリード
モスクワ・オリンピック

第22回夏季オリンピック大会ハンドボール競技は、男子が7月20日、女子が21日をそれぞれ第1日として8月1日までモスクワのソコルニキ・スポーツパレスと、ディナモ・モスクワスポーツホールの両会場で史上4度目（7人制としては3度目、女子は2度目）の熱戦をくりひろげる。

本誌前号既報のとおり、日本はJOC（日本オリンピック委）の決定にしたがい、アジア大陸代表権を放棄、国内の関係者、愛好者にとっては淋しさとともに、やや、関心が遠のいているが、大会の話題をまとめてみた。

4カ国が権利を放棄

モスクワ大会は、前回のモントリオール大会同よう男子12、女子6カ国の参加で行われ、今春3月の女子3大陸代表決定戦を最後に全代表が決まっていたが、ソ連のアフガニスタン侵入に抗議する各NOC（国内オリンピック委）の決定にそって、せっかくの代表権を棄てた国が、男子では日本のほか西ドイツ、チュニジア、女子では韓国の3カ国を数えた。

当初は、男子のデンマーク、スイス、スペインなども参加に？がつけられていたが、いずれも登場が決まり、関係者をホッとさせた。

しかし、男子では棄権した国がいずれも予選B組に片寄ったためIHF（国際ハンドボール連盟）では、6月に入り、急きょ予選組み合せの組み替えを行ない、別表のようなラインアップになった。

日本の代替国は、予想どおりクウェートと正式発表されたが、これは、補欠に指名された韓国、台湾、中国がいずれも不参加を表明したためである。

クウェートは、予選には姿を見せていず、昨秋の第2回アジア選手権3位（南京市）の実績が買われたといわれる。

女子は、韓国に代って3大陸予選2位のコンゴが繰りあがった。

ソ連×東ドイツの決勝か

男子は、なんといっても世界チャンピオン・西ドイツの不参加が淋しい。

2年前の世界選手権優勝時のメンバーから、エースのデッカルムを負傷で欠くとはいえ、若さにあふれた攻撃陣と、ベテランを揃えた守備陣の好バランスは、有力な金メダル候補だった。

それだけに、DHB（西ドイツ協会）も、最後の最後まで「参加」を主張していたが、実らなかった

東欧勢が圧倒的な強さを示す現情で、西ドイツが王座を狙うことは、大きな意味があったのだが、これで、今回の優勝争いは、完全に東欧主体となってしまった。デンマーク、スイスなどの実力に期待をかけるムキもあるが、率直のところ、ダークホースどまり、スペインも苦しい道のりだ。

金メダル争いは、ズバリ、ソ連×東ドイツだろう。

前に発表された組み分けのままだと、B組はユーゴが有力で、ソ連、東ドイツがA組で星をつぶし合うものと予想されたのだが、ソ連、東ドイツが分けられたため、読みやすくなった。

逆に、ユーゴにとっては、西ドイツ棄権で、B組1位をつかみかけただけに、不運な組み替えといえる。

ソ連×東ドイツの決勝は、ソ連が五・五から六分の有利とみている。

ダークホースはA組では、攻撃力のあるポーランドだろう。また浮上してきたハンガリーも侮れぬ力をもっている。

デンマークは、序盤キューバ、スペインの順で戦かう日程の利を活かせば面白い存在になれる。スペインは緒戦・東ドイツに全力を掛け、波にのりたいところ。

注目のキューバは、6月中旬、初のヨーロッパ遠征を行ない、フランスに2勝、中国に1勝、チェコジュニアに1勝するなど、かなりの実力を備えていることが分かった。オリンピックでの勝利は難しかろうが、初出場だけに、その試合ぶりに興味がかけられる。

B組はソ連絶対だけに、ユーゴ、ルーマニア、スイスの2位争いが興味。日本の代役・アルジェリア、チュニジアの代役・クウェートはかなり差を開かれよう。クウェートの監督はハンガリーのアドリアン、アルジェリアの監督は東ドイツのガンショフがつとめている。

女子、大会屈指のハイライト

女子は、たとえ韓国が出ていても、優勝争いに食いこむのはムリとみられていただけに、コンゴを置きざりにして5カ国が壮烈な試合を連続させる展開に変わりはた

常識的には、2年前の世界選手権1、2位の東ドイツ×ソ連戦（最終戦）に金メダルがかけられると思うが、ハンガリー、ユーゴ、チェコの戦力も、昨秋以降、急速に充実している。

特に、若いアタッカーを揃えたユーゴが勢いにのると、ソ連、東ドイツも油断はできず、このところ、ビッグイベントのたびに3位に甘んじているハンガリーも、モスクワで、今までの憤まんを一気にはらそうと燃えている。

コンゴがらみのカードを除く10試合は、いずれも死闘と叫ぶにふさわしい激しい攻防となりそうで女子ハンドボールの白熱は、今回行われる21競技のなかでもハイライトの一つに数えあげてよい。

あえて、そのなかから優勝国を占えば守りの強さでソ連とみる。

つまりは、モントリオールにつづき、ソ連の男女制覇が濃厚なモスクワ大会である。（杉山）

モスクワ・オリンピック組み分け

・男子予選リーグA組
東ドイツ（世界3位）
デンマーク（世界4位）
ポーランド（世界6位）
スペイン（ヨーロッパ第1）
○ハンガリー（ヨーロッパ補）
キューバ（米大陸）

・同B組
ソ　連（世界2位）
ユーゴ（世界5位）
ルーマニア（世界7位）
スイス（ヨーロッパ第2）
○クウェート（アジア補）
○アルジェリア（アフリカ補）

・女子決勝リーグ
東ドイツ（世界1位）
ソ　連（世界2位）
ハンガリー（世界3位）
ユーゴ（世界4位）
チェコ（世界5位）
○コンゴ（「3大陸」補）

・○印は繰りあげ出場国

プレス・ルーム ＜25＞

小 山 敏 昭
――――（共同通信社運動部）―

■心配なモスクワ不参加後遺症

JOC（日本オリンピック委員会）の、モスクワオリンピック不参加決定は、同大会に出場権をもつ競技団体にショックが大きかった。

なかでも前回のモントリオール大会で優勝した女子バレーボールは、FIVB（国際バレーボール連盟）に個別参加の道すら求めて同大会に参加を熱望した。しかしIOC理事会では『国内オリンピック委員会（NOC）の存在をおびやかす個別参加は認められない』との結論を出し、またJOC常任委員会も『総会の決定を覆えすのは不可能である』と判断、女子バレーの参加の道はなくなってしまった。

その間小島監督率いる日本代表女子チームは日ソ対抗、キューバ親善などの国際親善試合で技を磨き、六月初めには北海道の東部、別海町で合宿に入っていた。

それが不参加決定からこれまでモントリオールを終わってからの努力を含め、総て無駄になってしまった。しかも『モスクワまでの約束』という小島監督の任期が切れたばかりか、エース横山ら中心選手の引退がうわさされている。

これから協会内部での新生日本の再編成など数々の問題が露出してきそうだ。

女子バレーボールに次いで強い衝撃を受けたのが、柔道、レスリング、ヨットなどの金メダル有望種目だ。

柔道は山下泰裕という『絶対に金メダルを取れる』選手をかかえ軽量級でもいくつかの優勝が考えられた。しかも、松前重義東海大総長が国際柔道連盟の会長という要職にあり、バレーボール以上にモスクワ参加の道はあったはずだ。

ところが福岡で開かれた体重別大会で山下が不運にも足を骨折するというアクシデントが出たとたん、柔道界から『モスクワ参加』の声は消えてしまった。『なんとしても山下をモスクワへ連れていきたい』と意気まいていた松前会長や佐藤宣践東海大監督らも口をつぐんでしまった。

レスリングもそうだ。高田裕司選手を筆頭に富山英明選手ら世界選手権で優勝し、柔道と同じく日本の金メダル種目だった。ところが高田選手の〝涙の訴え〟も実らず不参加となり、第一線の選手たちは夢を失なってしまった。

競技スポーツをやるものにとって目的がなくなったときほど、寂しい思いはない。特に次のロサンゼルスを目指せる山下など若い選手は別にして、二十代後半のモスクワへかけていた選手たちにとっては、まさにたまらない思いに違いない。

こうした選手たちに協会としてなにが出来るのか。なにで報いてやれるのか。

ところで女子バレーボール同様球技種目でモスクワへの出場権を持っていた男子ハンドボール界への影響はどうだろうか。この記事が出るころは、賢明な方々の多いハンドボールでは既に後任のスタッフも内々には決まり、ロサンゼルスに向けて第一歩が踏み出されているに違いない。

しかし不参加による〝後遺症〟はまったくないわけではなかろう例えばベテラン選手たちの引退である。アマチュア・スポーツに引退という言葉はないと思うが、それでも第一線を退いてしまう意味での引退選手が何人かいる。彼等が受けた座折は大きい。ひょっとするとハンドボール界から足を洗ってしまうかもしれない。彼等の経験や技術などを置き去りにしたままに。

それからもうひとつ〝後遺症〟を挙げれば協会財政の弱体ぶりである。JOCが個別参加の道を示唆したとき、荒川理事長は斉藤会長と相談し、『もし自費で参加できる』なら参加するの結論を出した。しかし、もし仮に参加の道が開かれていたら、今回のモスクワ派遣に約一千万円近い費用がかかっていたはずだ。『オリンピックが最大の目標である』ことを考えれば安い金額ではないが、いまのハンドボール協会にとっては大金であろう。

現在体協には四十九の競技団体が加盟（準加盟）している。だがそのうち自からの協会で〝資金調達力〟を持っているのはバレーボール、サッカー、スキーなどわずかな競技団体だけで、あと残りは体協からの補助金（交付金）をあてにしている。ハンドボールでも体協からの補助金がかなりのウェートを占め、しかもオリンピック派遣はすべて体協まかせである。今回のJOC総会では某JOC委員から『お金もない競技団体はなにもいうべきではない』との〝暴言〟まで出たほどだ。

こうした体協と競技団体との関係を断って、競技団体が自己資金を持たねばならないと思う。

柴田委員長はモスクワ大会後に辞任する意向であり、福山競技力向上委員長の立場もやや微妙である。さらにはJOCの〝親〟である体協自体も河野会長、飯沢専務理事らが来年の理事改選をひかえて、進退が注目されている。

一月以来新聞紙面をにぎわしたボイコット問題。これからは、扱いは極端に小さくなるが、内部に秘められたトラブル、混乱は大きく、よほどの〝治療〟リハビリテーションがしっかりしていないと大変なことになりかねない。

日本ビクター4連勝,堅陣ゆるがず

第21回全日本女子実業団選手権は6月6，7，8の日3間名古屋の愛知県体育館にトップクラス11チームを集めて行われた。

実力伯仲の前評判どおり好試合が連続し，例年以上の盛りあがりをみせたが，決勝は，宿敵同士の日本ビクター（茨城）×ジャスコ（三重）の初顔せとなり，ビクターが逆転勝利をおさめ，4連勝を飾った。

なお，男子は9月1日から3日まで大阪市で行われる予定。

ジャスコ惜敗 全日本女子実業団選手権

大和、ムネカタに完勝

▽1回戦（3試合）

大和銀行（大阪） 18（10－5、8－3）8 ムネカタ（福島）

立石電機（熊本） 25（10－3、15－2）5 和歌山県商工信用組合（和歌山）

大崎電気（埼玉） 14（4－7、10－3）10 北国銀行（石川）

○…大和×ムネカタは、大和が10分5－2とした好調を最後までもちこんで完勝。ムネカタは、相手の一線防御を攻めあぐみ、勝機をつかめなかった。

立石×和歌山は、和歌山が0－3から2点を返し、その先を楽しませたが、立石は、新人・木下（武庫川女大出）の鮮やかなジャンプショットで5－2と突き放し、そのあとも攻撃の手を休まず、22分10－2として大勢を決めた。

大崎×北国は、北国が前半、速いパスワークで得点、先行したが大崎は後半立ちあがり2本のPTで反撃の手がかりをつかみ4分7－7、9分9－9のあと陽田、石井、宮嶋とたたみかけ、逆に主導権を握った。北国は、後半10分以降スピードが鈍り、自滅した。

ジャスコ、延長で立石下す

▽準々決勝

日立栃木（栃木） 22（14－2、8－9）11 東京重機（東京）

	【重機】	得	【日立】	得
GK	佐々間	0	寺沢	0
GK	橋本	0	斉藤	0
FP	寺西	4	吉田	8
FP	古谷	0	島田	6
FP	川本	1	山戸	1
FP	斉藤	2	大輪	1
FP	沖山	3	箕輪	0
FP	鈴木久	0	小根沢	0
FP	森田	0	水上	1
FP	宮田	1	毛塚	2
FP	大前	0	大高	2
FP	鈴木布	0	手打	1
PT		(3) 11		22 (3)

（審・小山、三浦）

○…好調を伝えられた重機だが日立の多彩な攻めに15分9－0と引きはなされては、どうしようもなかった。

日立は、緊張の立ちあがり2本のPTで先手をとれたことが大きく、そのあとは、全選手がのびのびと射ちまくり快勝した。

日本ビクター（茨城） 19（11－7、8－7）14 大和銀行

	【大和】	得	【日ビ】	得
GK	丸山	0	渡辺	0
GK	春口	0		
FP	宮本	2	志村	3
FP	若杉	2	穂積	4
FP	千原	2	小島	7
FP	中川	3	岩城	1
FP	東木	0	染谷	3
FP	鈴木	0	村上	0
FP	門	0	池田	0
FP	米山	3	中根	0
FP	山下	1	加藤	1
FP	岡部	1		
PT		(0) 14		19 (5)

（審・奥村、川島）

○…大和が先行するビクターに食いついたため面白い試合だった。ビクターはあっさり2－0としたが、大和も若杉、宮本ですぐにタイ、前半15分まで互角に試合を進めた。

しかし、スピードに優るビクターは、鋭い切りこみで大和守備陣からPTをとり18分8－5、ようやくペースをつかんだ。

ここらあたりの試合運びは、さすがにキャリア充分で、大和の若さをしのいだ。大和は後半20分10－19から4点連取するなど、敗れたものの、元気のいい試合ぶりをみせた。

ジャスコ（三重） 23（10－6、6－10…5－0、2－2）18 立石電機

	【立石】	得	【ジャ】	得
GK	井村	0	矢部	0
GK	荒木	0	山本一	0
FP	姫野	3	平田	0
FP	桑原	3	松下	3
FP	木下	2	山本二	4
FP	紀野	1	横山	3
FP	藪田	6	若田	3
FP	羽立	2	辻本	5
FP	喜久山	0	林	5
FP	是枝	0	宮崎	0
FP	岩村	0	若林	0
FP	近藤	1	巣山	0
PT		(3) 18		23 (3)

（審・岩永、岩木）

○…後半15分15－11とジャスコがリードした時は、そのままのペースで終るかにみえたが、立石はそのあと5分間に姫野、木下、羽立で4点をあげ同点、21分ジャスコ・山本に割られたが、23分木下が同点シュートを決めて、延長にもつれこんだ。

延長後、ジャスコの守りが建て直されたのに対し、立石は、一気の先行を狙ったのか、強引なプレーが多くなり、そこをPTや速攻でつかれ、連続5失点の深傷を負った。

延長後半、立石は、近藤、姫野で20－25とし、期待をもたせたがジャスコもすぐ辻本がゴール。残り30秒若田がダメを押した。

立石は、GK井村の攻守で、一時はジャスコを上廻りそうな勢いをみせたのだが、前半、延長前半相手の集中攻撃を断ち切れなかったのが敗因となった。

ブラザー工業（愛知） 16（8－3、8－11）14 大崎電気

	【大崎】	得	【ブ工】	得
GK	藤村	0	屋比久	0
GK	梅野	0	中村	0
FP	西	6	杏原	1
FP	陽田	5	竹内	5
FP	根開	0	則武	1
FP	石井	1	増永	2
FP	渡部	0	小平	0
FP	徳渕	2	植田	2
FP	江島	0	山村	5
FP	宮嶋	0	尾崎	0
FP	西嶋	0	松下	0
FP	嘉本	0	宮本	0
PT		(4) 14		16 (0)

（審・都梅、安芸）

○…後半2分3－9と点差をあけられていた大崎は、陽田の活躍で10分すぎには9－10と詰め寄った。

しかし、ブラザーは成長著しい竹内が連続ゴール、4点差として主導権をキープした。

これでブラザーは落ちつくかにみえたが、15分すぎ疲れから守りが乱れ三木のPTを課せられるなどして19分14－15とピンチを招いた。両チームの動きが、にわかに固くなり、拙攻を繰り返し、ブラザーは23分則武で16－14、どうにか逃げ切った。

日ビ、辛くも逆転勝ち

▽準決勝

日本ビクター 9（3—5, 6—3）8 日立栃木

得	【日ビ】		【日立】	得
0	渡辺	GK	寺沢	0
		GK	斉藤	0
1	志村	FP	大高	0
1	穂積	FP	毛塚	0
1	染谷	FP	水上	2
1	小島	FP	大輪	2
3	岩城	FP	島田	3
0	村上	FP	吉田	1
2	加藤	FP	手打	0
0	中根	FP	小根沢	0
0	伊藤	FP	山戸	0
0	池田	FP	箕輪	0
9	（2）	PT	（1）	8

（審・三浦、小山）

○…好試合だった。互角の序盤から日立は水上と島田の看板コンビで5—2と優位に立った。

ビクターは、再三の好機も、日立GK寺沢に防がれ、前半は7分以降、約15分間ノーゴール、日立が、この間に、あと2〜3点、いや1点入れていれば、戦況はかなり違ったものになったろう。日立も前半は〝5点目〟が最後になってしまったのだ。

22分ビクターは穂積で3—5としたが、日立は後半開始直後2点をもぎとり7—3。好調にみえたところが、ここでまたも追加点が止まった。

ベテラン揃いのビクターが、今度こそ、このチャンスを逃さなかった。染谷のPTと岩城の2点で15分6—7、日立は18分吉田がようやく得点して8—6としたものの、勢いは完全にビクター。

はたして18分加藤、19分小島（PT）で同点、新人GK・渡辺（太田二高出）が頑張り、日立を無得点に封じる中でタイムアップ2秒前、岩城が貴重な勝ちこし点、女王の貫禄を示す逆転劇を演じた。

日立は押しっ放しの試合を残り7分間で失ってしまった、といえる。

ジャスコ 20（14—6, 6—6）12 ブラザー工業

得	【ジャ】		【ブ工】	得
0	山本一	GK	尾比久	0
0	矢部	GK	中村	0
4	松下	FP	竹内	3
1	若田	FP	山村	2
5	辻本	FP	植田	2
0	平田	FP	則武	2
5	山本二	FP	増永	0
2	横山	FP	杏原	3
0	宮崎	FP	小平	0
3	林	FP	尾崎	0
0	若林	FP	松下	0
0	巣山	FP	宮本	0
20	（2）	PT	（0）	12

（審・安芸、部梅）

○…ブラザーは今大会、連続失点が多い。この試合も2—2のあと3点、4—5のあと3点、5—9のあと5点というように崩れ、前半で勝負を決められてしまった。

ジャスコは、相変らず松下が好リードを見せ、辻本、山本二の得点を生んだ。守っても、出足のよさでブラザーの中央突破を許さず後半16分19—7と思わぬ大差の試合になった。

3位に日立、4位ブラザー

▽3位決定戦

日立栃木 11（5—5, 6—4）9 ブラザー工業

○…日立は9—9から手打と島田で勝ちこし点、GK寺沢の巧技で3位を決めた。

得	【日立】		【ブ工】	得
0	寺沢	GK	尾比久	0
0	斉藤	GK	中村	0
3	吉田	FP	山村	1
6	島田	FP	植田	2
0	水上	FP	杏原	1
1	大輪	FP	竹内	1
0	大高	FP	則武	2
0	毛塚	FP	増永	2
0	山戸	FP	小平	0
0	箕輪	FP	尾崎	0
1	手打	FP	松下	0
0	小根沢	FP	宮本	0
11	（4）	PT	（0）	9

（審・岩本、岩永）

▽決勝

日本ビクター 19（7—9, 12—9）18 ジャスコ

得	【日ビ】		【ジャ】	得
0	渡辺	GK	山本一	0
		GK	矢部	0
3	志村	FP	平田	0
2	穂積	FP	松下	3
3	小島	FP	林	6
2	岩城	FP	山本二	2
3	染谷	FP	横山	1
0	伊藤	FP	宮崎	0
0	中根	FP	若田	1
3	池田	FP	辻本	5
3	加藤	FP	今里	0
0	村上	FP	若林	0
19	（6）	PT	（3）	18

○…ビクターが日立戦（準決勝）につづく逆転勝ちを見せ、スタンドを沸かせた。

立ち上りはジャスコ優勢、山本二とPTで9分3—0。白熱したのは、このあとビクターがあっという間に3点連取した場面からだ。

それでも主導権は、ジャスコが握りつづけていた。15分4—4から3点を奪い7—4、23分8—7のあとも松下が巧く相手の動きをみてゴール、この1点（9—7）で落ち着きも戻り、後半3分間の快攻に結びつき3分12—8と〝大差〟をつけたのだ。

ところが、前半なかばから、燃えに燃えるビクターは、この劣勢にも、ほとんどあわてず、まず二本のPTで10—12、その直後、逆にPTで1点を失ったが、やや動きの鈍くなったジャスコのパスプレーを読んで速攻を仕掛け9分12—13、9分10秒加藤が得意のパスカットからの独走で、ついに同点（13—13）に追いついた。

だが、ジャスコも、これでペースを奪われるようなことはない。11分14—14から辻本、林で今度こそ、と思える先行を成功させた。

○…ビクターの爆発がおきるのは、ここから。

相手の軸・松下の動きを食い止める一方で、じわじわと詰め寄ったのだ。

ジャスコとしては、再三の寄りをとらえ、そのあと生んだ2点差だけに、なおも粘ってくる相手のプレーには、それまでにない〝無言の圧力〟を感じないではいられなかったろう。しかも、柱の松下がマークされては、2点リードも無いに同じ。

ビクターは15分染谷で15—16、1分後PTで16—16、こうなるとジャスコのプレーがすべて萎縮してしまう。

そこをビクターは狙う。16分40秒、染谷—穂積とつなぐ鮮やかな速攻で逆転（17—16）だ。さらに19分池田、23分PTで19—16、4連勝を決めた。

ジャスコとしては押しまくりながらの敗戦、昨冬12月の全日本総合決勝も逆転負けだけに、充分気をつけての試合だったろうが、ビクターは、それをむしろ逆手にとって試合を進め、相手を重苦しく押しこんだあと、一気にスパートするという巧みな仕掛けをみせた。

国内最強同士の対戦にふさわしい熱戦で、とりわけ、コートに散らしたかけ引きの火花は、見応えがあった。

◆順位決定トーナメント・1回戦

北国銀行 12（6－3、6－2）5 大和銀行

大崎電気 14（7－1、7－5）6 ムネカタ

東京重機工業 29（16－5、13－6）11 和歌山県商工信用組合

▽同2回戦

立石電機 17（9－5、8－7）12 北国銀行

大崎電気 19（12－3、7－6）9 東京重機工業

▽同敗者戦（7・8位決定戦）

北国銀行 13（9－1、4－6）7 東京重機工業

（得点者）【北】千歩5、八木4、中山2、本田、西出各1、【重】川本、宮田各3、沖山1

▽同3回戦（5・6位決定戦）

立石電機 15（8－8、7－5）13 大崎電気

（得点者）【立】姫野、薮田各4、木下3、桑原2、紀野、羽立各1【大】西7、徳渕2、陽田、渡部江島、宮嶋各1

最優秀新人に渡辺（日ビ）

全日本実連は、大会終了後、今大会の表彰選手を次のように決めた。ベストセブンで松下（ジャ）の6回目は、垂水（大洋デパート）のもつ記録にタイ。

☆ベストセブン（○内数字は受賞回数）

・GK 矢部登茂子（ジャ） 初

・FP 加藤美紀子（日ビ） ⑤

穂積美保子（日ビ） ④

小島　和子（日ビ） ②

松下　仁美（ジャ） ⑥

島田さゆり（日立） ④

竹内　保子（ブエ） 初

☆最優秀新人賞 渡辺利枝（日ビ・GK、太田二高出）

☆新人敢闘賞 木下智子（立石、武庫川女大出）

☆最優秀監督賞 池田鉄哉（日ビ）

☆敢闘選手賞 辻本（ジャ）、水上（日立）、薮田（立石）、陽田（大崎）、八木（北国）、川本（重機）、米山（大和）、塩崎（和歌山）、広田（ムネカタ）

― 歴代優勝チーム ―

①（昭35）愛知紡績
～認定優勝～
② 愛知紡績
③ 愛知紡績
④ レナウン東京
⑤ 大崎電気
⑥ 大洋デパート
⑦ 田村紡績
⑧ 田村紡績
⑨ 大洋デパート
⑩ 大洋デパート
⑪ 大洋デパート
⑫ 大洋デパート
⑬ 大洋デパート
⑭ 大洋デパート
⑮ 東京重機工業
⑯ 田村紡績
⑰ 立石電機
⑱ 日本ビクター
⑲ 日本ビクター
⑳ 日本ビクター
㉑（昭55）日本ビクター

男子24、女子8クラブ参加

京都で全国クラブ大会

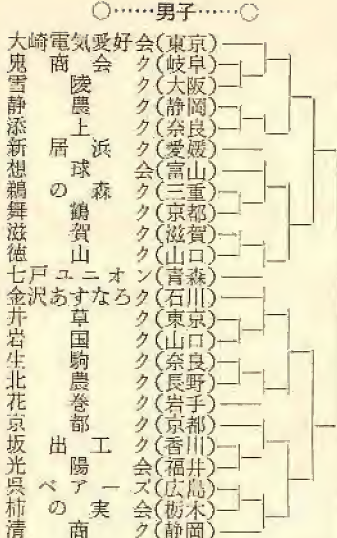
第4回全国クラブ大会が7月4、5、6の3日間京都府の舞鶴市体育館、海上自衛隊舞鶴体育館、同教育隊体育館で開かれる。

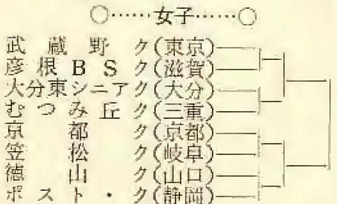
参加チームは男子が24女子が8でトーナメント法式によって優勝を争う。

この大会は、男子は昨年まで静岡協会が主催していた「全国男子クラブ大会」、女子は岐阜協会が主催していた「ギフ・カップ」をうけついでのもの。

いずれも、市民組織ともいうべき「全国クラブ担当者会議」が中心となり、京都協会が主催、主管する。

男女の組み合せは上記のとおり。





「関東高校」の陣容決まる

8月の日韓高校交流

東京都高体連ハンドボール部は8月17日東京体育館で予定される第14回（女子第7回）日韓高校交流東京大会に出場の「関東高校選抜チーム」のメンバーを、このほど次のように決め、発表した。

（男子）▽監督 川上整司（中大付高監督）▽コーチ 田中隆一（駒大高監督）、設楽孝治（川井高監督）▽GK 山口弘（中大付）辻和仁（日川）▽FP 小山昌司田中良一、長坂博隆、大木茂（以上中大付高）、谷口孝良、塚田忠律、内藤裕治（以上駒大高）、近藤浩人（明星）、中村勉（横浜商）、高山英夫（市川）。

（女子）▽監督 原信雄（藤村女高監督）▽コーチ 五味崇恵（和洋女監督）▽主務 蓮沼一恵（藤村女）▽GK吉永広美（拓大一）浜野龍子（和洋女）▽FP 中島幸子、青木佐智子、下平慶子（以上藤村女）、一の瀬薫、伊藤栄子（以上明倫）、佐藤和子、雨宮三恵（以上日川）、鈴木ゆかり、山崎由美（以上和洋女）、小池由起子（拓大一）

◇

今夏の日韓高校交流（8月17日東京、19日浦和）に出場する韓国代表校は、男子が東亜高（釜山市）女子が全南体育高（全南）に決まったようだ。

東亜は46年の第6回大会にも来日している名門、往年の名手・金成蔥氏がコーチをつとめている。

全南は初来日だが、平均身長166cmという大型チーム。全メンバーは近く発表される。

◇各地学生春季リーグ戦 ②

新進函館大が初優勝

北海道

5月16日から18日まで、桜咲く函館市にて開催された道学連春季リーグ戦は、昨年春加盟の函大が急成長をとげ、秋季リーグ同様、北大との決定戦のすえついに道学連王座についた。

試合開始1分、北大長身の藤山の左45度ロングシュートをかわきりに前半は勝気に上気した函大に対し、本来の持味のローリング良く、チャンスをつかむ北大のリードで終了。

後半、函大は堤の好リードから宮原、清水のサイドシュートを連続的に決め、試合運びに難のある北大の弱点も出て、2点差で王座を奪った。

1部下位、2部リーグの技術低下が見られ、盛り上がりにかける大会となった。

女子の部では、旭教大が深草の好プレー、栃木の好守により、釧教大ポイントゲッター佐藤をつぶし圧勝、連続優勝をはたした。

なお、個人賞は、男子最優秀選手権が堤稔亮(函館大)、同得点王は1部が宮原(函館大)、2部が岩城(北海道工大)、優秀選手は宮原、清水、奥村(いずれも函館大)、大山、嶋田(ともに北大)、佐藤（室蘭工大）　女子最優秀選手は深草千秋(教大旭川)、優秀選手は栃木、大西、大場(いずれも教大旭川)、道辻、佐藤、内山（いずれも教大釧路）となった。

▽男子1部

北大	32	（14 18－6 4）	10	北星学園
室蘭工大	20	（12 8－7 8）	15	北星学園
函館大	36	（19 17－3 4）	7	旭川教大
北大	30	（18 12－6 3）	9	旭川教大
函館大	22	（11 11－7 7）	14	釧路教大
釧路教大	31	（15 16－3 3）	6	北星学園
室蘭工大	20	（13 7－9 8）	17	旭川教大
北大	28	（15 13－3 10）	13	室蘭工大
函館大	43	（22 21－6 6）	12	北星学園
釧路教大	16	（9 7－5 9）	14	旭川教大
北大	28	（11 17－9 4）	13	釧路教大
函館大	32	（18 14－8 5）	13	室蘭工大
室蘭工大	22	（12 10－7 3）	10	釧路教大
旭川教大	24	（12 12－4 7）	11	北星学園
函館大	19	（12 7－8 9）	17	北大

【順位】①函館大5戦全勝②北大4勝1敗③室蘭工大3勝2敗④北海道教大釧路2勝3敗⑤北海道教大旭川1勝4敗⑥北星学園5敗

▽同2部1組

小樽商大	22－18		北海道工大
北大水産	25－8		道東海
小樽商大	21－16		北大水産
北海道工大	28－9		道東海
小樽商大	21－10		道東海
北海道工大	22（分）22		北大水産

▽同2組

函館教大	不戦勝	札幌商大
北海学園	15－10	北見工大
函館教大	26－18	北見工大
北海学園	不戦勝	札幌商大
函館教大	16－13	北海学園
北見工大	不戦勝	札幌商大

▽同1～4位決定リーグ

北海学園	15－13	小樽商大
北海道工大	16－13	函館教大
函館教大	24－9	小樽商大
北海道工大	23－12	北海学園

【順位】①北海道工大②北海道教大函館③北海学園④小樽商大

▽同5～8位決定リーグ

北大水産	不戦勝	札幌商大
北見工大	28－16	道東海
北大水産	28－16	北見工大
道東海	不戦勝	札幌商大

【順位】⑤北大水産学部⑥北見工大⑦北海道東海⑧札幌商科大

女子は道教大旭川

▽女子

釧路教大	23	（12 11－2 3）	5	北星学園
旭川教大	23	（15 8－0 4）	4	北星学園
旭川教大	26	（14 12－5 6）	11	釧路教大

【順位】①北海道教大旭川②北海道教大釧路③北星学園

名城、9度目飾る

名大転落 中京棄権

東海

4月29日から5月25日まで名古屋の愛知県体育館に、1部5校、2部6校、3部4校が参加して行なわれた。

1部は、中京が序盤2戦に大勝する好スタートを切ったが、そのあと部員の交通事故死で今シーズンの全日程を棄権することになり優勝争いは名城の独走、第3週で早々とシーズンぶり9度目の優勝が決まった。

2位は名古屋学院、愛知学院が

並んだが、ともに初の上位進出、特に名古屋学院は1部での白星は初めてだった。

28年秋リーグ発足以来、1部に在籍しつづけていた名大は1勝もマークできず5位、リーグ戦後の入れ替え戦にも敗れて、初の2部落ちというショッキングなできごとがあった。

2部は中部工大が快調にとばし14シーズンぶり8度目の優勝、中京に代って部昇格を決めた。

3部は愛大豊橋が3戦全勝で3度目。

なお、女子は本誌前号既報のとおり、愛知教大が宿願の初優勝を飾った。

▽男子1部

名城 22（9－7、13－5）12 名古屋学院
名城 29（17－4、12－4）8 名大
愛知学院 16（9－9、7－6）15 名古屋学院
名城 31（14－7、17－6）13 岐阜大
愛知学院 18（9－5、9－8）13 名大
名古屋学院 19（10－6、9－12）18 岐阜大
名城 24（12－6、12－11）17 愛知学院
名古屋学院 25（13－2、12－6）8 名大
名大 14（7－8、7－6）14 岐阜大
引き分け
岐阜大 25（16－6、9－15）21 愛知学院

【順位】①名城4戦全勝②名古屋学院2勝2敗（得失点差7）③愛知学院2勝2敗（マイナス5）④岐阜大1勝1分2敗⑤名大1分3敗※中京は棄権

▽同2部

三重大 15（分）15 名古屋工大
滋賀大 16－11 愛知教大
中部工大 32－14 滋賀大
三重大 26－23 愛知教大
南山 16（分）16 名古屋工大
滋賀大 25－17 名古屋工大
中部工大 35－16 三重大
愛知教大 17－15 南山
中部工大 24－11 名古屋工大
三重大 13－11 南山
中部工大 19－11 愛知教大
三重大 25－22 滋賀大
中部工大 36－10 南山
名古屋工大 14（分）14 愛知教大
滋賀大 （分） 南山

【順位】①中部工大5戦全勝②三重大3勝1分1敗③滋賀大2勝1分2敗④愛知教大1勝1分3敗⑤名古屋工大3分2敗⑨南山2分3敗

▽同3部

東海大海洋 22－18 日本福祉大
愛大豊橋 28－12 東海大海洋
静岡大 18－11 日本福祉大
愛大豊橋 16－8 日本福祉大
静岡大 25－11 東海大海洋
愛大豊橋 14－13 静岡大

【順位】①愛知大豊橋3戦全勝②静岡大2勝1敗③東海大海洋学部1勝2敗④日本福祉大3敗

★男子ベストセブン・GK箕輪・FP玉井、纐纈、立木（以上名城）、星野（名古屋学院）、古川（愛知学院）、森（岐阜大）

金沢工大が13度目、金沢大2位

北信越学生春季リーグ戦は、6月7、8日の両日金沢美術工芸大学体育館に8大学と仮加盟の新潟大を迎えて行われた（男子のみ）。

4校づつ2組の予選リーグのあと各組同位同士で6位までを争う法式が採られ、予選A組1位の金沢工大×同B組1位の金沢大による決勝戦は、後半5分まで1点を争う好ゲームとなったが、金沢工大は8－7から連続3ゴールをあげて試合のペースを握り、山本、山田、佐藤らの活躍で金沢大を振り切った。3シーズン連続13度目の優勝である。

仮加盟の新潟大は金沢医大、金沢美工大と対戦、1勝1敗だった。

▽予選リーグA組

金沢工大 18－8 長野大
信州大 21－13 長野大
信州大 21－9 金沢美工大
金沢工大 32－2 金沢美工大
長野大 25－13 金沢美工大
金沢工大 15－13 信州大

【順位】①金沢工大②信州大③長野大④金沢美術工芸大

▽同B組

金沢大 17－14 金沢医大
福井大 23－11 金沢医大
金沢大 24－19 富山大
富山大 15－13 福井大
富山大 14－13 金沢医大
金沢大 18－15 福井大

【順井】①金沢大②富山大③福井大④金沢医科大

▽オープン・ゲーム

金沢医大 24－18 新潟大
新潟大 17－15 金沢美工大

▽5・6位決定戦

長野大 19（12－7、7－11）18 福井大

▽3・4位決定戦

富山大 15（7－6、8－7）13 信州大

▽首位決定戦

金沢工大 17（9－6、8－5）11 金沢大

得	【工大】		【金大】	得
0	滝谷	GK	坂野	0
		GK	高島	0
1	喜多	FP（審・岡山 谷）	川原	5
2	佐藤		小嶋	1
2	井上		亀田	1
0	岡田		中村	1
0	赤平		山本	0
5	山田		佐野	1
0	高橋		杉田	0
7	山本		北岡	1
0	金森		埴田	1
			後藤	0
17	（1）	PT	（2）	11

大阪体大が5季連続15度目

関　西

男子は4月20日から5月25日まで西京極体育館などで1部7、2部7、3部7、4部6、5部9校が参加して行なわれた。

注目の1部は、予想どおり大阪体大と大阪経大の並走となり、最終戦、5勝同士で顔合せという盛りあがった展開になった。

しかし、試合は大阪体大の一方的なものとなり、前半15分9－2と大差がつき、その後も大阪体大が押しまくって後半10分20－8、大勢を決した。

大阪体大の優勝は5シーズン連続15度目。大阪経大は6シーズン連続2位（注・54年春は近大と同率）。

激戦になったのは3位争い。二強への食い下りぶりからみて同志社優位と思われたが、近大に手痛い1敗を喫し、京都産大とあわせ3校が五割で並んだ（得失点差では同、近、京産の順）。

2部は、激しい首位争いが演じられ、大阪府大が巧みに連勝、神戸大、関学の追撃となった。このあと神戸大が立命館に不覚をとって脱落、最終戦、関学が大阪府大を降して、両校同率、得失点差での争いから関学が大府大戦の9点差にモノをいわせ〃逆転優勝〃、3連勝4度目を飾った。

なお、関学は別掲のとおりリーグ戦後の入れ替え戦にも勝ち、47年秋2部転落（48年秋3部転落）以来16シーズンぶりで1部復帰を決めた。

関学は、過去25回優勝を飾る名門、このカムバックは、オールドファンを喜ばすものだ。

3部は大阪市立大が大阪学院戦でつまづきながらも3度目の優勝

4部は大阪工大が4度目、5部は決勝リーグで京都府大が初の首位を決めた。

▽男子1部

大阪体大 30（17－6 13－8）14 大阪大
同志社 24（12－10 12－11）21 京都産大
大阪経大 19（9－7 10－1）8 関大
大阪体大 33（16－5 17－3）8 関大
大阪経大 17（7－7 10－8）15 同志社
京都産大 30（16－17 14－11）28 近大
大阪体大 20（7－8 13－5）13 同志社
近大 38（23－12 15－9）21 大阪大
大阪経大 20（8－13 12－5）18 京都産大
大阪経大 26（14－7 12－5）12 大阪大
近大 37（17－14 20－8）22 関大
大阪体大 30（14－7 16－6）13 京都産大
京都産大 25（14－11 11－9）20 大阪大
大阪体大 31（16－9 15－9）18 近大
同志社 37（19－11 18－4）15 関大
同志社 28（16－9 12－10）19 大阪大
京都産大 28（12－14 16－8）22 関大
大阪経大 22（12－5 10－6）11 近大
近大 22（10－8 12－11）19 同志社
関大 23（10－6 13－4）10 大阪大
大阪体大 29（14－7 15－7）14 大阪経大

得	【体大】		【経大】	得
0	矢永	GK	中尾	0
0	近藤	GK	末続	0
4	安田	FP	南	1
5	砂川	FP	加藤	2
9	亀井	FP	植野	5
2	金子	FP	船橋	3
0	樋	FP	高野	0
2	竹内	FP	御牧	2
3	菅沼	FP	筵田	0
3	玉村	FP	依藤	0
1	土山	FP	中野	0
0	山本	FP	吉川	1
29	（3）	PT	（1）	14

（審・櫻塚・吉田博）

関学、最終戦で首位決定

▽同2部

神戸大 16－10 京大
関学 18－8 立命館
大阪府立大 26－9 奈良教大
京大 16－12 天理
天理 16－11 奈良教大
大阪府立大 14－13 神戸大
関学 19－10 奈良教大
立命館 15－14 京大
大阪府立大 22－15 天理
神戸大 26－20 関学
大阪府立大 22－14 立命館
京大 24－12 奈良教大
天理 18－13 立命館
神戸大 26－14 奈良教大
関学 21－14 京大
関学 24－14 天理
大阪府立大 19－9 京大
立命館 19－16 神戸大
立命館 25－10 奈良教大
神戸大 20－18 天理
関学 20－11 大阪府立大

大阪市大が3度目

▽同3部

京都教大 16－11 追手門学院
大阪教大 15－11 甲南
大阪市大 17－14 和歌山大
和歌山大 16（分）16 大阪学院
大阪市大 22－7 大阪教大
京都教大 12（分）12 大阪学院
大阪学院 9－8 甲南
大阪市大 27－12 追手門学院
京都教大 21－16 和歌山大
京都教大 24－14 甲南
大阪教大 16－9 大阪学院
追手門学院 19－15 和歌山大
大阪学院 16－13 大阪市大
京都教大 20－15 大阪教大
甲南 25－15 追手門学院
甲南 20－16 和歌山大
追手門学院 19－11 大阪教大
大阪市大 20－12 京都教大
大阪学院 15－10 追手門学院
大阪市大 14－13 甲南
大阪教大 16－13 和歌山大

【順位】①大阪市立大5勝1敗②京都教大4勝1分1敗③大阪学院3勝2分1敗④大阪教大3勝3敗⑤追手門学院・甲南2勝4敗⑦和歌山大1分5敗（6位は得失点差で追手門）

▽同4部

滋賀大 11－10 竜谷

関西学生春季男子（1部）

	体	経	同	近	産	関	阪	P
①大体大	…	○	○	○	○	○	○	12
②大経大	●	…	○	○	○	○	○	10
③同志社	●	●	…	●	○	○	○	6
③近　大	●	●	○	…	●	○	○	6
③京産大	●	●	●	○	…	○	○	6
⑥関　大	●	●	●	●	●	…	○	2
⑦大阪大	●	●	●	●	●	●	●	0

【2部順位】①関学5勝1敗（得失点差39）②大阪府大5勝1敗（34）③神戸大4勝2敗④立命館3勝3敗⑤京大2勝4敗⑥天理2勝4敗⑦奈良教大6敗

大阪工大 19—14 大阪薬大
竜谷 15—13 桃山学院
滋賀大 15—7 関西外語大
大阪薬大 18—16 竜谷
桃山学院 22—19 関西外語大
大阪工大 17—12 滋賀大
桃山学院 20—19 大阪薬大
大阪薬大 13—8 滋賀大
大阪工大 23（分）23 桃山学院
大阪工大 28—20 関西外語大
滋賀大 12—10 桃山学院
竜谷 15—14 関西外語大
関西外語大 15—9 大阪薬大
大阪工大 23—11 竜谷

【順位】①大阪工大4勝1分②滋賀大3勝2敗③桃山学院2勝1分2敗④竜谷・大阪薬科大2勝3敗⑥関西外語大1勝4敗（5位は得失点差で竜谷）

▽同5部A組
京都府大 14—7 京都工大
京都府大 17—10 姫路工大
京都工大 26—16 姫路工大

▽同B組
大阪外語大 23—9 奈良大
神戸商大 21—19 奈良大
神戸商大 14—11 大阪外語大

▽同C組
大阪歯大 25—13 八代大
京都外語大 19—18 大阪歯大
京都外語大 27—16 八代大

▽同7～9位決定リーグ
姫路工大 32—26 奈良大
奈良大 16—11 八代大
姫路工大 19—9 八代大

▽同4～6位決定リーグ
大阪外語大 18—12 京都工大
大阪外語大 没収試合 大阪歯大
京都工大 大阪歯大

▽同1～3位決定リーグ
京都府大 18—17 神戸商大
京都外語大 12—8 神戸商大
京都府大 27—16 京都外語大

【最終順位】①京都府大②京都外語大③神戸商大④大阪外語大⑤京都工大⑥大阪歯大⑦姫路工大⑧奈良大⑨八代大

武庫川女、圧倒の10連覇

関西（女子）

4月19日から5月25日まで大阪府大体育館で1部7校、2部7校によって行われた。

1部は11シーズン連続、武庫川女と大阪体大の優勝争いになり最終日5勝同士の両校が対戦した。

試合は、武庫川女が先手をとりながら、いつになく動きが固く、大阪体大は伊勢の3連続ゴールで逆転した。

しかし、後半、武庫川女は6分清水で5—4と先行してから持ち前の力を発揮、連続4ゴールをあげ16分9—4、主導権を握ってそのままのペースで押切り、ついに10シーズン連続優勝（通算12度目）50年秋からの関西学生リーグ内連勝記録を58に伸ばした。

2位の大体大、3位の京都教大は昨秋につづいての順位、1部初進出の関学は6敗とふるわなかった。

2部は、前季1部の奈良教大が滋賀大、和歌山大を得失点差でおさえ3度目の優勝。

▽1部
京都教大 12（6—4、6—5）9 大阪教大
武庫川女 28（13—1、15—1）2 京都女
大阪体大 20（9—1、11—5）6 関学
武庫川女 26（13—1、13—1）2 関学
京都教大 12（4—1、8—4）5 成蹊女短
大阪体大 13（5—2、8—2）4 大阪教大
京都教大 8（5—1、3—2）3 京都女
大阪体大 24（11—7、13—1）8 成蹊女短
武庫川女 23（11—2、12—0）2 大阪教大
成蹊女短 8（2—1、6—1）2 京都女
大阪教大 24（13—2、11—2）4 関学
武庫川女 15（8—2、7—1）3 京都教大
武庫川女 25（14—2、11—1）3 成蹊女短
京都教大 16（10—0、6—2）2 関学
大阪体大 19（9—2、10—2）4 京都女
大阪教大 9（4—3、5—3）6 京都女
大阪体大 15（6—3、9—1）4 京都教大
成蹊女短 8（3—2、5—3）5 関学
京都女 8（3—2、5—3）5 関学
大阪教大 14（7—4、7—5）9 成蹊女短
武庫川女 12（2—3、10—2）5 大阪体大

	【体大】	得	【武庫】	得
GK	竹山	0	宮崎	0
GK	吉田	0	水谷	0
FP	横井	0	沢村	2
FP	飯島	0	清水	4
FP	市原	0	西川	1
FP	辰巳	0	長谷川	0
FP	中里	0	川合	0
FP	塚田	0	玉置	2
FP	伊勢	5	富田	3
FP	小川	0	梅木	0
FP	西岡	0	藤山	0
FP	望月	0	守行	0
PT		5（2）		12（2）

（審・吉田敏、村尾）

【順位】①武庫川女大6戦全勝②大阪体大5勝1敗③京都教大4勝2敗④大阪教大3勝3敗⑤成蹊女短大2勝4敗⑥京都女大1勝5敗⑦関学6敗

▽2部
奈良教大 21—4 大阪薬大
滋賀大 11—10 和歌山大
神戸大 4—3 関大
和歌山大 19—11 奈良女大
奈良教大 10—4 滋賀大
関大 8—3 大阪薬大
奈良教大 24—8 奈良女大
滋賀大 9—6 関大
和歌山大 20—10 神戸大
和歌山大 21—7 大阪薬大
奈良教大 12—5 神戸大
奈良女大 8—3 関大
奈良女大 11—10 神戸大
滋賀大 18—4 大阪薬大
和歌山大 16—11 関大
奈良女大 14—9 大阪薬大
滋賀大 8—2 神戸大
和歌山大 14—11 奈良教大
奈良教大 13—6 関大
神戸大 12—3 大阪薬大
滋賀大 15—7 奈良女大

【順位】①奈良教大5勝1敗③滋賀大5勝1敗②和歌山大5勝1敗④奈良女大3勝3敗⑤神戸大2勝4敗⑥関大1勝5敗⑦大阪薬大6敗

関学、11季ぶりで1部へ

▼関西学生春季リーグ入れ替え戦

▽男子1～2部
関学（2部①）18（11—10、7—6）16 大阪大（1部⑦）
関大（1部⑥）20（11—9、9—10）19 大阪府大（2部②）

▽同2～3部
大阪市大（3部①）20—10 奈良教大（2部⑦）
天理（2部⑥）20—19 京都教大（3部②）

このほか、男子3～4部は和歌山大、追手門学院が残留、4～5部は京都府大、京都外語大が昇格。

女子1～2部は奈良教大、和歌山大の2部勢が昇格。

暮らしへの奉仕を合言葉に。



ジャスコ

東京本社 東京都千代田区神田錦町1－1
大阪本社 大阪市福島区大開1－8－8



鉄はともだち

石から銅へ、銅から鉄へ。人類がくらしの中に鉄をとりいれてから、既に3000年以上もの年月がたっています。いま、鉄はわたしたちの生活に深く結びつき、社会を支えるたいせつな役割をになっています。鉄の力強い手ごたえ、じょうぶで、加工しやすく、資源にも恵まれている鉄。新日鉄は、社会のさまざまなニーズに対応して鉄のもつこの豊かな特長を余すことなく引きだすために、新しい技術の開発や資源・エネルギーの有効利用など幅広い分野で、多くのテーマととりくんでいます。

新日本製鐵

関東学生リーグ・続報

▽男子3部
青山学院 27―16 横浜国大
専修 19―18 東大
東京学芸大 16―15 東大
東京理大 23―9 防衛大
東京学芸大 22―16 横浜国大
専修 17―12 防衛大
東大 23―9 大東文化
横浜国大 17―16 東京理大
青山学院 20―15 防衛大
横浜国大 21―15 防衛大
東京理大 20―16 大東文化
青山学院 18―17 東京学芸大
東大 17―14 横浜国大
東京学芸大 20―14 専修
青山学院 23―11 大東文化
青山学院 22―20 東京理大
横浜国大 21―13 専修
東京理大 20―16 専修
青山学院 23―22 東大
大東文化 16―11 東京学芸大
大東文化 18―13 専修
東京学芸大 20―16 東京理大
東大 21―6 防衛大
青山学院 23―20 専修
大東文化 20―11 防衛大
東大 26―16 東京理大
大東文化 22―14 横浜国大
東京学芸大 17（分）17 防衛大
【順位】①青山学院7戦全勝＝4度目の優勝②東京学芸大4勝1分2敗③大東文化・東大4勝3敗⑤横浜国立大・東京理科大3勝4敗⑦専修3勝4敗⑧防衛大1分6敗（5～7位は得失点差）。得点王、丹沢秀大（青山）56。

▽同4部
芝浦工大 29―15 東京経大
埼玉大 24―18 関東学院
東京工大 16―11 関東学院
上智 17―11 埼玉大
東洋 17―14 横浜市大
東京工大 10―8 上智
東京経大 13（分）13 横浜市大
芝浦工大 21―7 東洋
東京経大 14―10 関東学院
埼玉大 15―10 東京工大
東京経大 17―15 埼玉大
芝浦工大 21―13 関東学院
上智 15―8 東洋
横浜市大 20―14 東京工大
芝浦工大 19―17 上智
埼玉大 19―16 東洋
東京経大 17―15 上智
横浜市大 17―16 芝浦工大
東京工大 10―9 東洋
東洋 15―9 関東学院
埼玉大 14―13 横浜市大
東京経大 15―13 東京工大
芝浦工大 18―12 埼玉大
横浜市大 14―13 関東学院
芝浦工大 25―13 東京工大
上智 23―10 横浜市大
上智 29―14 関東学院
東京経大 24―5 東洋
【順位】①芝浦工大6勝1敗＝初優勝②東京経大6勝1敗③上智4勝3敗④埼玉大4勝3敗⑤横浜市大・東京工大3勝4敗⑦京洋2勝5敗⑧関東学院7敗

▽同5部
千葉工大 23―17 武蔵工大
一橋 11―8 創価
武蔵 10（分）10 武蔵工大
文教 27―19 都留文科大
千葉工大 16―9 武蔵
創価 16―4 都留文科大
創価 23―6 武蔵
神奈川大 23―17 千葉工大
一橋 10―9 都留文科大
一橋 13―12 千葉工大
武蔵 22―12 神奈川大
千葉工大 16―15 文教
神奈川大 18―14 武蔵工大
都留文科大 12（分）12 武蔵工大
都留文科大 17―15 武蔵
武蔵 27―22 文教
神奈川大 18―13 一橋
一橋 16―11 武蔵工大
武蔵工大 18―13 文教
神奈川大 22―16 創価
武蔵工大 10（分）10 創価
一橋 11―10 文教
千葉工大 17―13 都留文科大
神奈川大 35―23 文教
一橋 18―17 武蔵
千葉工大 18―10 創価
文教 26―22 創価
神奈川大 21―16 都留文科大
【順位】①神奈川大7戦全勝＝3度目の優勝②一橋6勝1敗③千葉工大5勝2敗④武蔵工大2勝3分2敗⑤創価・武蔵2勝1分4敗⑦文教2勝5敗⑧都留文科大1勝1分5敗
（注）6部の記録は次号。

都留文科大（女）4連勝

▽女子2部
千葉明徳短大 12―9 東海
文教 13―5 千葉大
横浜国大 20―9 東海
都留文科大 24―4 千葉大
文教 19―18 東海
都留文科大 18―7 文教
横浜国大 18―6 千葉大
千葉明徳短大 17―7 千葉大
千葉明徳短大 11―7 文教
東海 22―11 千葉大
都留文科大 17―11 東海
都留文科大 14―11 千葉明徳短大
横浜国大 22―9 文教
都留文科大 15―10 横浜国大
横浜国大 6―3 千葉明徳短大
【順位】①都留文科大5戦全勝＝4連勝②横浜国大4勝1敗③千葉明徳短大3勝2敗④文教2勝3敗⑤東海1勝4敗⑥千葉大5敗
学習院女短大、青山学院は棄権。

◆関東学生春季リーグ入れ替え戦

（5月27日・駒沢体育館）
▽男子1～2部
順天堂（1部⑧）23（15―9、8―11）20 東海（2部①）
慶応（2部②）21（14―9、7―5）14 日大（1部⑦）
▽同2～3部
青山学院（3部①）28―21 横浜商大（2部⑧）
駒沢（2部⑦）19―16 東京学芸大（3部②）
▽同3～4部
芝浦工大（4部①）14―10 防衛大（3部⑧）
専修（3部⑦）19―13 東京経済大（4部②）
▽同4～5部
神奈川大（5部①）24―13 関東学院（4部⑧）
東洋（4部⑦）20―18 一橋（5部②）
▽同5～6部
都留文科大（5部⑧）17―13 都立大（6部①）
明治学院（6部②）24―13 文教（5部⑦）
▽女子1～2部（1試合）
茨城大（1部⑨）14（6―5、8―4）9 都留文科大（2部②）

▼東海学生春季リーグ入れ替え戦（5月）

三重大が昇格
三重大（2部②）25（14―6、11―12）18 名大（1部⑤）
中部工大（2部①）棄権 中京（1部）

▼第35回早稲田―関学定期戦（6月・早大）

早大勝つ
早稲田 34（12―13、22―4）17 関学

▼第20回早慶明3大学定期戦（6月・早大）

明治が優勝
明治 21―18 早稲田
明治 22（分）22 慶応
慶応 23―22 早稲田
【順位】①明治②慶応③早稲田

リポート

審判員の実働分析

～全日本総合選手権から～

日本協会強化部トレーニングドクター群・審判部

ハンドボール競技のゲーム内容の充実、競技力の向上に関しては個々の選手、コーチ・監督などの指導陣の努力もさることながら審判員のゲーム中の管理運営状況が大きな要因を占めていることが常に論議されるところである。

今回、審判部とトレーニングドクター群は協力して、昭和五十四年度全日本総合選手権大会期間中の審判員の実働内容を種々の面より検討した。詳細な分析は当期間中の測定・記録の実務にたずさわった日体大学生諸君の報告にまつこととして、ここではその概要を報告する。

（期日・場所・対象）昭和五十四年十二月十二日より十六日迄、東京都体育館において実施された全日本総合選手権大会一回戦より決勝戦に到る男女ゲーム計38試合を対象とし、各試合を担当した日本協会A級審判員6ペアおよび国際審判員2ペアの16名について測定記録を行った。ただし記録員の都合等により全ての試合について全ての調査内容を網羅することは出来なかった。

（試合前後の体重・心拍数・フリッカー値・自覚症状の調査について）

◆体重の変化について

試合前後の体重測定が正確になされた延べ44名についてみると、変化のなかったもの16名、500 gの体重減少を来したもの21名、1 kgの体重減少を示したもの6名、1,5 kgの体重減少を示したもの1名であった。すなわち約半数のものが500 gの体重減少を示した。この成績は大会期間が冬季であり、体育館内の温度が第一日10～12℃、第二日12.8～15.0℃、第三日14～15℃、第四日14～14.5℃、第五日15℃という低温であったため発汗による体重減少が少ないためであろうと考えられる。4～5日間を通じての変化においても減少傾向は認められず逆に増加傾向を示したものが多くみられた。

◆心拍数の変化について

試合前および試合直後（60秒以内）の心拍数を前膊部より触診で測定した。試合前の心拍数に対する試合直後の心拍数の増加率は約20％増から100％増にバラツキがみられたが、これと試合の男女別とか試合内容とは特に密接な関係を示さなかった。個々人の体力レベルおよび走法の問題であろう。実増加数とその延べ人数を第一表に示すが平均では試合直後に37.7拍動／分の増加がみられた。

【第1表】

試合直後心拍数 ー試合前心拍数	人数
～10	4
11～20	7
21～30	14
31～40	19
41～50	9
51～60	12
61～70	4
71～80	2

◆フリッカー値について

点滅するライトの頻度が速くなって連続光と感じた時点と逆に連続光状態から頻度が遅くなって点滅と感じる時点のチラツキ周波数の平均をもってフリッカー値とした。これは中枢神経系の疲労度を測定する手法に用いられるものであって数値が低いほど疲労状態を示すものである。延べ73名についての測定結果では66％のものが試合後に試合前より好成績を示し、34％のものが試合前より試合後に変化なしまたは成績の悪化を示した。また好成績を示したケースの平均4.4％は上昇であり、悪化を示したケースの平均は4.6％の下降であった。

フリッカー値の低下したケースはゲームの運営管理により神経性の疲労を来たしたものと考えられるが約3分の2の人達は試合後にフリッカー値が良くなった。これは正確なジャッジと良い位置どりをしようという努力が自らの身体的精神的状態の高揚をまねき、その結果が試合後にまで残ったものであろう。

◆自覚症状の調査について

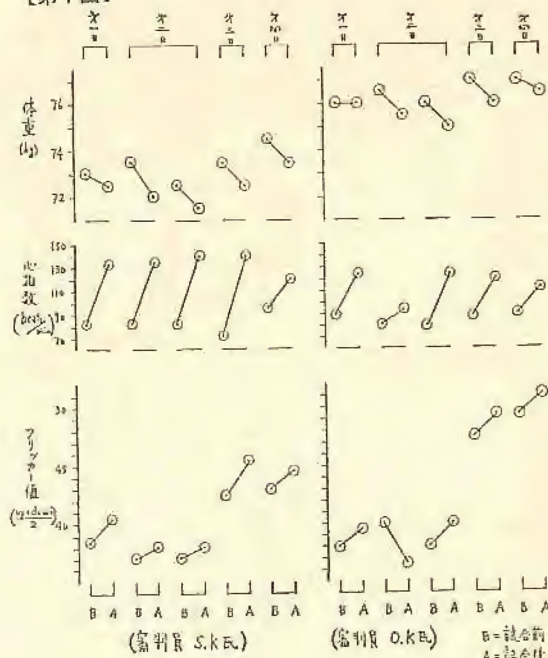
4～5日間の試合前後の自覚症状に対する質問にはとくに顕著な愁訴はなかった。試合後に口が乾くとか大会後半に足のだるさを訴えるというごく普通のものが少数みられた。

これら試合前後に調査した三項目についての一例（S・K氏とO・K氏のペア）を第一図に示す。

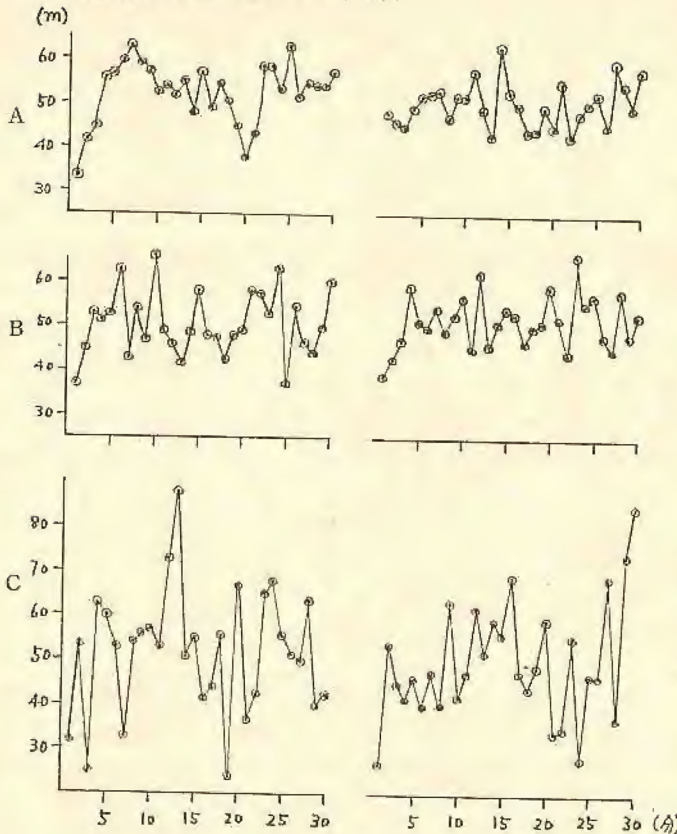
◆男女別・試合内容別の走行距離について

男子ゲーム・女子ゲームのそれぞれの試合内容を試合後に審判控え室において多人数にて評定を行い、大接戦ゲーム・普通ゲーム・大差ゲームの三段階に分けそれぞれをA・B・Cランクと名付けた走行距離とみなしたのはゴールレフェリー時の立位監視、センターレフェリー時の巡回監視、移動時

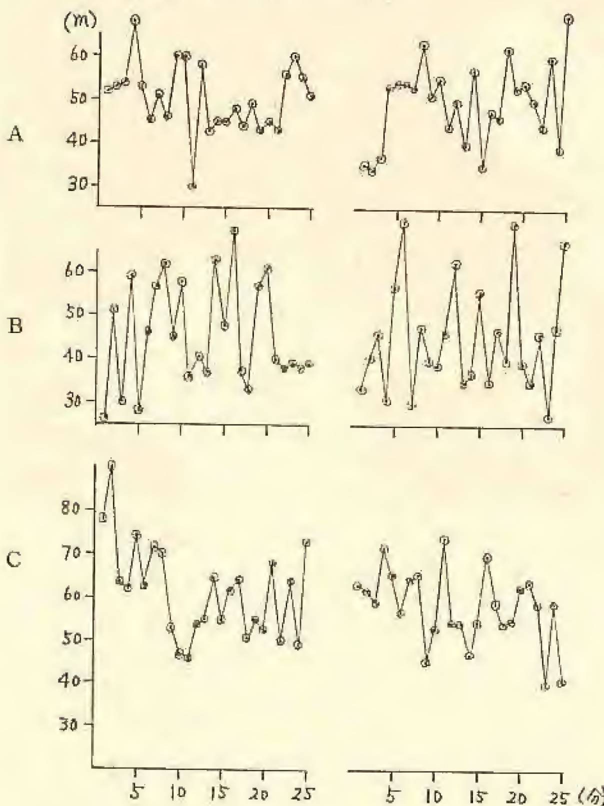
【第1図】



【第2図】前半＜男子ゲーム＞後半



【第3図】前半＜女子ゲーム＞後半



【第2表】

ゲーム内容	男子ゲーム (人数)	女子ゲーム (人数)
Aランク	9 (18)	8 (16)
Bランク	7 (14)	4 (8)
Cランク	4 (8)	5 (10)

の歩行をのぞくランニングと全力疾走の総和であり、グラフでは一分間当りの距離であらわした。対象としたゲームの内訳は第二表の通りである。

各ゲームには2名づつの審判員がおり、また試合展開によりその走行内容距離は異ると考えられるが大まかな数値を引き出すために男女それぞれについての各ランク別に一分間当りの平均値を出して前後半毎に集計してみたものが第三表である。

大会期間中の試合内容をおしなべて考えると男子ゲーム（30分ハーフ）では一人の審判員が約三、〇七〇m、女子ゲーム（25分ハーフ）では約二、六〇〇mの走行を行うことになる。この値はそれぞれ一分間に50mを走る計算になるがその時間経過を追ってグラフ化したものを第2・3図に示す（ここでは一分間の平均を示し、審判員個々人によるバラツキについてはグラフの簡略化のため省いた）。

【第3表】男子ゲーム(30分ハーフ)

	前　半	後　半	計(m)
A	1573	1509	3082
B	1514	1555	3069
C	1554	1502	3056

女子ゲーム（25分ハーフ）

	前　半	後　半	計(m)
A	1257	1240	2497
B	1138	1132	2270
C	1560	1451	3011

第2図に示した男子ゲームについてみるとBランクゲーム（普通ゲーム）では前後半ともに5〜6回の一分間当り走行距離の多い時期がみられる。このあたりは速攻・インターセプト・パスミス・逆速攻などの混戦を反映しているのであろう。Aランクゲーム（大接戦ゲーム）では前半が比較的安定し、ほぼ一定の走行距離を示したが、二〇分ごろに走行距離の減少がみられる。これは審判員の疲労もさることながら選手の疲労等からくるゲームの沈滞期であろう。後半に入るとBランクゲームと同様に分毎の走行距離のバラツキが前半より多くみられ、勝敗決定への戦況のあわ

ただしさを伺い知ることが出来る。Cランクゲーム（大差ゲーム）では走行距離の大小が著しくみられる。これはカット・インターセプトなどによる逆速攻やキーパーからのワンパス的なボール出しなどによる速攻などのために走行距離が多くなるのであろう。男子A・B・Cランクのゲームの前後半に共通してみられることはスローオフ直後の移動距離の少ないことでゲーム運びが慎重に行なわれるために生じる現象であろう。

女子ゲームについてみると、Aランクゲームの前半には移動距離の一定化がみられるが11~12分ごろに走行距離の減少期がみられる。これは男子Aランクゲームの20分ごろの現象と起因を同じくするものであろう（この減少期はB・Cにおいても見受けられる）。勝敗の決する後半の後半戦における走行距離のバラツキ傾向も男子と同様である。Bランクゲームでは Aランクゲームに比べて走行距離のバラツキが著しい。この現象はとくに前半に多く認められ、後半では全体的に動き距離が少なくなり5分間に一回程度の動きの大きな時期がみられた。選手側の疲労と回復の周期を物語っているかも知れない。Cランクゲームの走行距離の大きさは予想外である。優勢なチームの一方的な速攻について走るため審判員の走行距離が延びると考えざるを得ないがこの際の走行は男子ゲームにおける全力疾走とは意味のちがった軽度のランニングが多く含まれているものと考えられる。

◆ゲーム中の各種行動の比率

ゲーム中における審判員の各種行動を6種類に分類し、男女のAランクゲームを対象に試合開始より25分間のものを前後半に分けその様相をしらべた。行動分類の内容は以下の通りである。笛・ジェスチャーは一回の呼笛、一回のジェスチャーを一回と数え、呼笛とジェスチャーの同時動作も一回と数えた。立位監視はゴールレフェリー時のもの、巡回監視はセンターレフェリーで位置移動を伴いながらの監視距離、歩行は左右いずれかの足が着地しているいわゆる歩行であり、ランニングと全力疾走の差はその緊急度に応じた走りから判断し、バックステップ・サイドステップでの移動はランニングとした。その集計を第4表に示す。

前半と後半を比較するとき、全力疾走・ランニング・巡回監視の距離が後半に少なくなり、逆に歩行距離・立位監視が多くなるのは後半にジャッジすることが増加していることと合わせ考える必要があろう。ゲームのスピードが後半におちるためか、ゲームに対する慣れからプレー内容の読みが出来るためか、また審判員の精神的疲労のためか、それぞれに意見の分れるところであろう。尚この第4表をもとにそれぞれの動作内容毎に要するエネルギー代謝量を計算集計した結果は105.32前半102.08後半カロリーで一試合（25分ハーフ）にて207.4カロリーがついやされることになる。第4表を算出するための基礎資料となるものは5分ごとに用紙に記入したタイムスタディである。男子決勝戦を担当した光島・狩野両国際審判員ペアの決勝戦における行動記録を参考までに第4・5図（25頁）として提出する。

◆まとめ

審判技術の巧拙が競技力の向上にかなり大きなウェイトを占めていると意見が多くの人々によって唱えられているが、その実体はどんなものなのか。総合選手権の担当を義務づけられている国際審判員と国内各ブロックより選ばれたA級ペアによる国内最高のハイレベル大会を対象にいくつかの調査を行った。試合前後の調査内容からは一日に一試合または二試合の審判担当で疲労症状が大きく現われたものはなく、多くのものが精神機能の賦活状態をあらわしたように心身ともに健常な状態を大会期間中維持した。これは各審判員がそれぞれの自覚のもとに日常生活での精進をし、大会期間中も摂生をしていたこともあろうが、大会が冬期の室内において行なわれたことに留意すべきである。真夏の炎天下でこのような結果が出るかどうかは疑問である。

一試合当りの走行距離については若干少ない印象をもった。ここには記録調査員の判定基準の問題が残るかも知れない。またゲーム後半において実走行距離が前半よりも少なくなったことはゲーム内容の如何を問わず審判員のダレ（怠慢的）と批判されることが多いので注意すべきことであろう。調査内容が限局された一面しかとらえていないという反省はあるが審判員の実働分析の手始めであると御容赦いただきたい。

ハンドボール競技がより一層発展していくために真摯な態度でひたむきに努力する選手とゲームの運営管理にたずさわる審判員の協調的な精進が今後益々必要とされるところである。

【文責・新井節男】

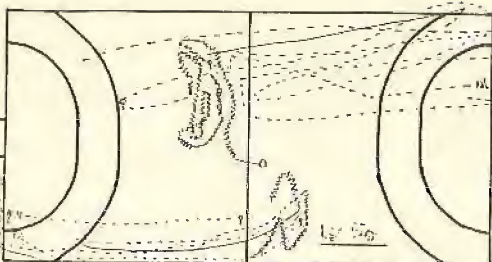
【研究論文など募集】機関誌編集委員会では、ハンドボールに関する研究論文、リポートなどの寄稿（図表含め一万字程度）をお待ちしています
投稿後、掲載までに若干、時間がかかる場合があります
掲載原稿は原則としてお返しいたしません。

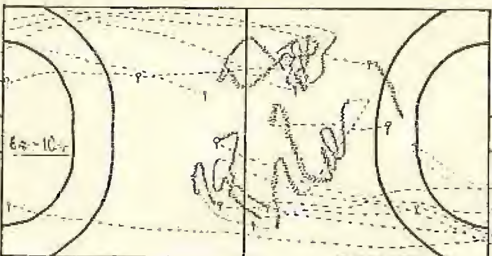
【第4表】

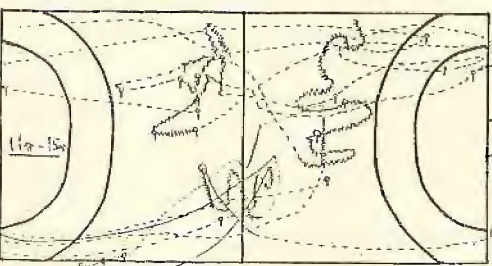
	笛 ジェスチャー(回)	立位監視(秒)	全力疾走(m)	ランニング(m)	歩行 (m)	巡回監視 (m)
前　半	54.2	213	307.5	973.8	215.3	193.5
（1分間当り）	(2.2)	(8.5)	(12.3)	(38.9)	(8.6)	(7.7)
後　半	57.4	227	280.4	965.8	236.4	169.1
（1分間当り）	(2.3)	(9.1)	(11.2)	(38.6)	(9.5)	(6.8)

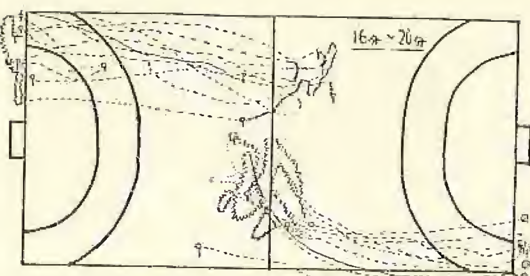
（Aランクゲーム　男女　25分間）

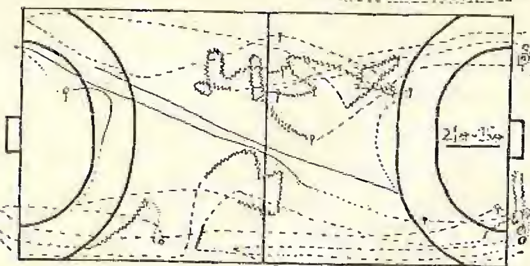
【前半】

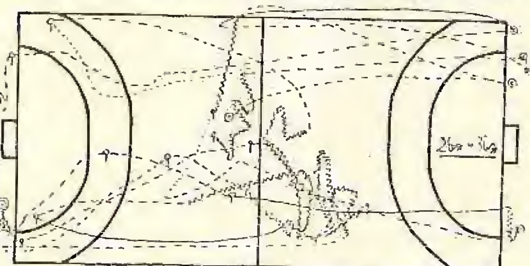

1分~5分


6分~10分

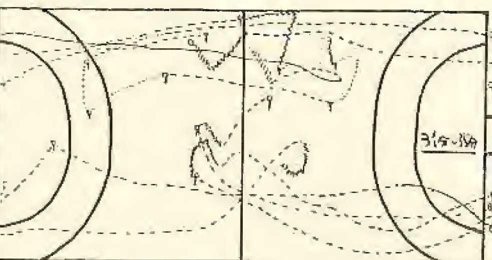

11分~15分

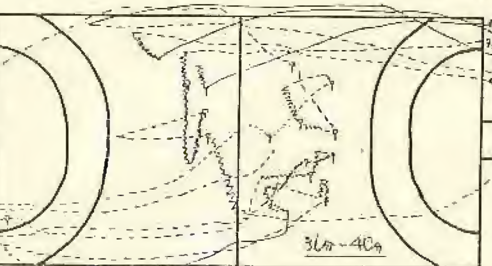

16分~20分

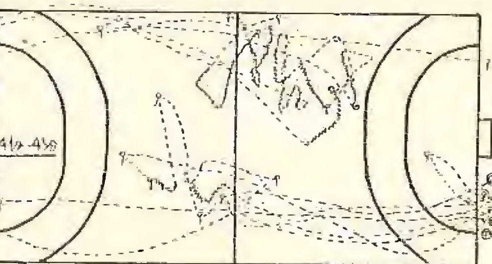

21分~25分

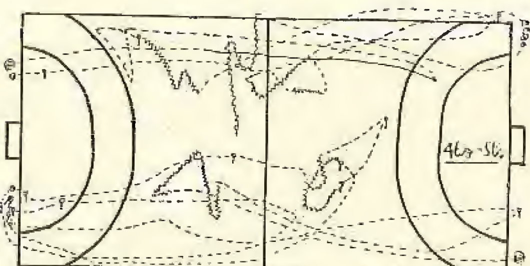

26分~30分

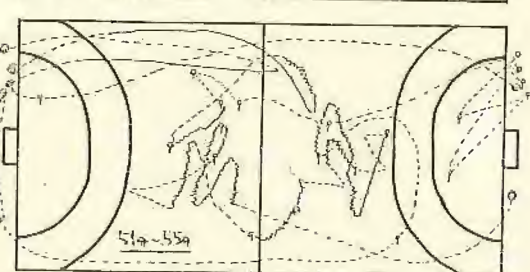
【後半】

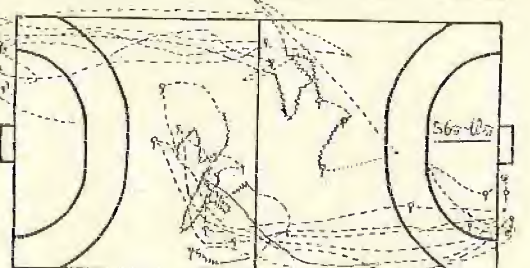

31分~35分


36分~40分


41分~45分


46分~50分


51分~55分


56分~60分

ヨーロッパ球信

早川 清孝
（日本体協海外研修コーチ・在西ドイツ）

グロスバルスタット快勝

今回は、まずヨーロッパ・ゴールデンカップの模様からお伝えしましょう。

前便（注・本誌185号）でお伝えしたとおり、今シーズンの男子ヨーロッパ・カップは、西ドイツのTV・グロスバルスタットが優勝。同カップ・オブ・カップス（カップウィナーズ・カップ）は、スペインのカルピサ・アリカンテが栄冠を握りましたが、ゴールデンカップは、この両者が、いわば、今シーズンのヨーロッパ・クラブチームナンバー・ワンの座をかけて戦かう試合です。

この試合が行われるようになったのは、昨シーズンからで、今シーズンは女子も始められると聞いています。

試合は、五千近いファンを集めてミュンヘンで行われましたが、戦前の予想どおり、グロスバルスタットが、後半、本領を発揮して19－15で快勝、第1回につづいて連続、ヨーロッパのキングになりました。

しかし、アリカンテも、スペインナショナルの選手を主力にしてよく戦い、立ちあがり、いきなり0－3、1－5とされた劣勢を、じわじわと盛り返し、前半20分5－5の同点、ハーフタイム前には8－7と逆転して前半を終えたパワーは、なかなかのものでした。

グロスバルスタットは、後半17分12－11と再び先行してから、攻防両面で持ち前の力を発揮、栄光を保持したものです。

「カップ」と「リーグ」

さて、カップとかカップスとかいう言葉ですが、すでにご承知の読者も多いとは思いますが、ヨーロッパの国のスポーツ界は、ほとんどが、リーグ戦とカップ戦の二大トーナメントを行っており、この二つが、いわゆる公式戦としてシーズンに行われることになります。

両トーナメントの最大の特色はリーグ戦は文字どおりリーグ法式すなわち総当り戦で、カップ戦はいわゆる日本でいうトーナメント法式、勝ち抜き戦なことです。

リーグ戦は、多くの場合、その勝者が、そのシーズンの国内チャンピオンとなり、いわばメジャーな位置を占めていますが、カップ戦も近年は、非常に関心が高まっており、熱が入ってきました。

リーグ戦に参加するのは、日本での学生リーグのように、実力別に1部、2部、3部…と厚い層が築かれていますが、カップ戦は、このワクがはずされているのも大きな特長といえます。

地元の人の声援、支持が圧倒的に多いヨーロッパのスポーツ（ハンドボール）界では、リーグ戦で2部なり、3部にくすぶっている地元クラブが、カップ戦で、名の通った1部のクラブと対戦できるのは魅力で、スタンドから1部のスタープレイヤーに接することができるのも、楽しみの一つになっています。

西ドイツの「カップ」戦

今シーズンの西ドイツの男子カップ戦も随所に1部リーグ（ブンデス・リガ）対2部リーグ（レギョナル・リガ）、時には1部リーグ対3部リーグ（地域オーバー・リガ）のカードなどあって、ファンを沸かせました。

決勝は、すでにリーグ優勝（21勝4分1敗）も決めているTV・グロスバルスタット×TUSネッテルスタットの顔合せで、5月17日、ギーセンに三千近い観衆を集めて行われました。

ネッテルスタットは、1部リーグでは9位（12勝2分12敗）の成績に終っていますが、カップ戦は好調に勝ち抜いてきました。

余談になりますが、ネッテルスタットは、準々決勝で3部のTV・レムゴ（ウエストハーレン地域）と対戦、勝ちましたが、レムゴは、かつて西ドイツの帝王と呼ばれたスーパースター、ルブキングの卒いるクラブ、しかも、彼はレムゴに移る前、ネッテルスタットに籍を置いていたことから、この対戦は、ファンやマスコミの話題を呼びました。ルブキングは三十八才になるハズです。

ネッテルスタットは、来日したことのあるミュンヘン優勝のユーゴチームからラザレビッチとミルヤクを助っ人に招いている新興クラブで、グロスバルスタットとの対戦は、一本勝負だけに、これまた興味深いものでした。

ネッテルスタット及ばず

グロスバルスタットの主力は、昨夏、日本を訪れたクルースピース、フライスラー、メイジンガーGKホフマンと4人のナショナル主力がおり、リーグでの試合ぶりは26試合で482得点、360失点という圧倒的なものがありました。

試合は、ネッテルスタットが3－6の劣勢から、しだいに盛り返し27分8－8、後半8分には12－11と逆転する健闘で、スタンドを熱狂させました。

しかし、地力のあるグロスバルスタットは、そのあとのピンチをGKホフマンの美技で防ぎぬき、攻撃陣も立ち直って後半なかばから押し気味となり、終盤15－15、16－15、17－15と巧妙にリード、ネッテルスタットを振り切り、二冠の達成に成功しました。

ネッテルスタットにも、ユーゴコンビのほかバルッケ、ケラーの両ナショナルプレイヤーが居ますが、なんといってもグロスバルスタットは、GKホフマンを持っているのが強味で、彼の堅守には、見るたびにうならされます。

カップ戦の終了で、昨秋からの西ドイツのシーズンは幕を閉じるわけですが、今年は、オリンピックイヤー（といっても、西ドイツはモスクワをボイコットしましたが…）とあって、西ドイツナショナルは6月初め、ルーマニアでのビッグトーナメントへ参加することになっています。

クラブに属する一般の愛好者たちは初夏の太陽を全身にあびて、芝生コートでのハンドボールに興じはじめ、いかにもハンドボール王国らしい風景が描かれています。

（日本協会強化コーチ・日体OB）

国民体育大会等参加者傷害補償制度（案）概要

<目　的>

国民体育大会等の参加者が競技中等において生じた事故によって傷害を被った場合，これを救済する目的で（財）日本体育協会は加盟団体（都道府県体育協会，中央競技団体）の協力を得て下記要領により昭和56年度から完全実施とする。なお，国民体育大会（都道府県予選会，ブロック大会，本大会）参加者は，この補償制度に加入しなければならない。

1. 対　象　者

(1) 都道府県予選会の全競技参加選手，監督（役員等を含むことができる）

(2) ブロック大会の全競技参加選手・監督および都道府県本部役員

(3) 本大会の全競技参加選手・監督および都道府県本部役員

2. 期間及び内容

(1) 都道府県大会。大会開会式時から競技終了時までの傷害事故

(2) ブロック大会。大会に参加するため自宅を出発してから自宅に帰るまでの傷害事故。ただし，大会開会式の2日前から大会終了日の翌日までの間に限る。

(3) 本大会。大会に参加するため自宅を出発してから自宅に帰るまでの傷害事故。

ただし，冬季大会及び夏季大会は開会式の2日前から7日間，秋季大会は開会式の2日前から9日間に限る。

3. 傷害給付金

(1) 死亡給付金額	250万円
(2) 後遺障害給付金額	7万5000円～250万円
(3) 入院給付金日額	3,000円（180日程度）
(4) 通院給付金日額	2,000円（90日程度）

<注>　入院，通院を通じいかなる場合でも180日を限度とする。

4. ．加入負担金　　　1人200円

5. 事務手続き

すべて都道府県体育協会が窓口となる。

<傷害給付金請求書の手続>

傷害事故報告書の提出

都道府県体育協会は，別に定める要領にて，各大会終了後（財）日本体育協会事務局国体担当へ報告書を提出。

審査及び請求書類の送付

提出された関係書類を審査し，この補償制度の適用範囲であれば下記書類を本人宛直送する。

(1) 傷害給付金請求手続要領

(2) 傷害給付金請求書

(3) 診断書

(4) 傷害給付金受領通知書

給付金請求書等の返送

給付金請求者は，上記書類のうち(2)，(3)に所要事項を記入し，下記へ送付する。

株式会社　日本体育振興

〒107　東京都港区赤坂1－3－15　中田ビル

TEL　03―585―9791　担当者　徳永貞直

6. 給付金の振り込み　　給付金請求書の指定口座へ給付金を振り込む。

7. 給付金受領通知書の返送

給付金請求者は，給付金が振り込まれたことを確認次第，上記書類に所要事項を記入し，（財）日本体育協会事務局国体担当へ返送。

優勝は駒大高、明倫の初顔

関東高校選手権

第26回関東高校選手権は、6月7日から9日までの3日間、山梨県の甲府緑が丘体育館、同球技場に男子それぞれ1都7県から25校が参加して、トーナメント法式で行われた。

男子は、3連勝を狙う中大付（東京）が、3月の全国高校選抜大会2位の勢いにのって、この大会も有力とみられたが、準々決勝で伏兵の浦和実業学園高（埼玉）に逆転負けする波乱がおきた。

ベストフォアは、東京×埼玉勢の対決になったが、東京の駒大高明星が僅差で勝ち抜き決勝を争い駒大高が、前半のリードを守って快勝、初の栄冠を手にした。

一方、女子は、地元・日川（山梨）が快調に勝ちあがってムードを盛りあげ、好試合がつづいたが決勝は明倫(神奈川)×日川の初顔合わせとなり、波乱の大会をしめくくるように、延長戦へもつれこみ、明倫は終了寸前のFTを活かして10—9で勝ち、初優勝を飾った。神奈川の女子優勝は初めてである。

▽男子1回戦
富　岡(群)20—13横商大付(神)
浦和南(埼)13—11岩　井(茨)
土浦三(茨)15—12国学院栃木
川口工(埼)20—10船橋旭(千)
中大付(東)28—24横浜商工(神)
甲府一(山)15—13佐　原(千)
明　星(東)32—10甲府工(山)
石　橋(栃)22—13塩山商(山)
前橋商(群)25—17土浦一(茨)

▽同2回戦
駒大高(東)28—13富　岡
浦和南16—14日　川(山)
千葉市川(千)17—9土浦三
中大付21—17足利工(栃)
浦和実学(埼)20—4甲府一
川口工19—17横須賀学(神)
明　星24—8吉　井(群)
前橋商21—13石　橋(栃)

▽同準々決勝
駒大高17（10—7　7—8）15浦和南
川口工21（12—7　9—8）15千葉市川
浦和実業学園20（10—7　10—11）18中大付
明　星20（11—5　9—8）13前橋商

▽同準決勝
駒大高22（12—9　10—10）19川口工
明　星19（9—9　10—9）18浦和実業学園

▽同決勝
駒大高17（8—7　9—5）12明　星

▽女子1回戦
山　梨(山)13—10浦和西(埼)
吉　井(群)13—9吉　田(山)
小山城南(栃)13—8厚木商(神)
拓大一(東)8—3鉾田一(茨)
結城二(茨)10—7国学院栃木
昭和学院(千)16—3第一商(山)
行田女(埼)12—11下仁田(群)
川　和(神)8—3生　浜(千)
水海道二(茨)10—桐朋女(東)

▽同2回戦
群馬女短大付12—6山　梨(山)
吉　井11—10藤村女(東)
川口北(埼)14—10小山城南
明　倫(神)14—10拓大一
日　川(山)10—7結城二
栃木女(栃)14—7昭和学院
和洋女(千)14—9行田女
水海道二18—6川　和

▽同準々決勝
群馬女短大付10（6—4　4—3）7吉　井
明　倫12（6—7　6—4）11川口北
水海道二11（5—6　6—4）10和洋女
日　川14（8—2　6—6）8栃木女

▽同準決勝
明　倫18（9—6　9—5）11群馬女短大付
日　川14（6—3　8—3）6水海道二

▽同決勝
明　倫10（1—0　1—1　…　4—6　4—2）9日　川

松山北、新居浜工を破る

四国高校選手権

第29回四国高校選手権は、6月14、15の両日徳島県・池田高に4県の代表男女各8校が参加して行われた。

男子は、今季も新居浜工(愛媛)が、強力という前評判どおりの試合ぶりで勝ち進んだが、決勝で顔を合せた同県の松山北が一歩もひかぬ大健闘を示し、後半に逆転、そのまま押し切って初優勝を飾った。

女子は、新居浜商（愛媛）が3試合で49点をあげる抜群の攻撃力で7連勝、13度目の優勝を遂げた

▽男子1回戦
松山北(愛媛)29（15—9　14—4）13城南(高知)
新居浜工(愛媛)18（13—5　5—3）8池田(徳島)
高松商(香川)16（7—7　9—6）13追手前(高知)
土佐(高知)17（0—0　3—2　…　7—10　7—4）16坂出工(香川)

▽同準決勝
松山北28（18—9　10—7）16土佐
新居浜工21（8—7　13—7）14高松商

▽同3位決定戦
高松商24（14—11　10—10）21土佐

▽同決勝
松山北15（7—5　8—9）14新居浜工

▽女子1回戦
大正(高知)10（6—3　4—6）9伊予農(愛媛)
三本松(香川)13（7—5　6—6）11富岡東(徳島)
新居浜商(愛媛)21（8—2　13—5）7佐川(高知)
池田(徳島)7（5—4　2—1）5高松南(香川)

▽同準決勝
大　正19（11—2　8—2）4三本松
新居浜商20（11—1　9—2）3池　田

▽同3位決定戦
池　田6（4—3　2—1）4三本松

▽同決勝
新居浜商11（4—2　7—1）3大　正

釧路勢強し　第31回北海道高校選手権は、男子が釧路湖陵の初優勝、女子が釧路商の2連勝となった。

氷見と小松市　第16回北信越高校選手権は、男子が氷見（富山）の6連勝、女子が小松市女（石川）の4連勝と順当だった。

中京と市邨　第27回東海高校選手権は、男子が中京（愛知）の連勝、女子が市邨学園（愛知）の3年ぶりの優勝(詳報次号)

各地の記録

全宮崎の好調つづく

第16回九州一般男子選手権は5月10、11日の両日熊本県の山鹿市勤労青少年スポーツセンターなどに6県から15チームが集まり、トーナメントで行われた。

九州球界をリードしていた教員チームに代って、この地域も企業勢が上昇ムード、今大会はベストフォアに2チームが残った。

決勝は、昨年以来の好調を持続する全宮崎と熊本教員の対戦になり、全宮崎が立ち上りから秀れた攻撃力で圧倒、快勝した。

▽1回戦

赤間ク（福岡） 23（12－6 11－8）14 本田技研熊本（熊本）
鹿児島ク 30（15－9 15－6）15 神埼ク（佐賀）
新日鉄大分（大分） 24（15－13 5－10）23 熊本トヨタ（熊本）
熊本教員 27（15－10 12－6）16 口加ク（長崎）
佐賀教員 16（8－7 8－6）13 海自鹿屋（鹿児島）
海自佐世保（長崎） 19（10－3 9－6）9 木渡ク（熊本）
BS久留米ク（福岡） 26（13－5 13－5）10 日豊ク（大分）

▽準々決勝

全宮崎 25（13－12 12－6）18 赤間ク
新日鉄大分 24（13－12 11－9）21 鹿児島ク
熊本教員 18（9－8 9－8）16 佐賀教員
BS久留米 22（11－13 11－7）20 海自佐世保

▽準決勝

全宮崎 30（14－9 16－14）23 新日鉄大分
熊本教員 24（13－10 11－10）20 BS久留米

▽決勝

全宮崎 32（16－10 16－8）18 熊本教員

大分東シニアが快勝

第9回九州女子クラブ大会は、5月10、11日熊本県鹿央町公民館に7チームが集まり行われ、大分東シニアク（大分）が、神埼ク（佐賀）、天草ク（熊本）らをおさえて栄冠を握った。

▽1回戦（2試合）

天草ク（熊本） 15（9－5 6－7）12 福岡教大（福岡）
熊本グローズ（熊本） 16（7－4 9－4）8 宮崎ク（宮崎）
神埼ク（佐賀） 棄権 長崎ク（長崎）

▽準決勝

大分東シニア・ク（大分） 19（6－2 13－2）4 天草ク
神埼ク 14（8－6 6－5）11 熊本グローズ

▽決勝

大分東シニア・ク 17（7－6 10－7）13 神埼ク

女子は徳山ク6連勝

第25回（女子第8回）中国一般選手権は5月26、27日の両日鳥取の米子市民体育館を主会場に、男子16、女子3チームが参加して行われた。

男子は、昨年〝欠席〟した日本リーグ加盟の湧永薬品（広島）、日新製鋼（広島）が復帰、順当に勝ち進み、両者の決勝は、「オリンピック選手」を揃えた湧永が前半で勝負を決めて2年ぶり4度目の優勝を遂げた。注目の中四国学生1位・広島工大は準々決勝で姿を消した。

女子は3クラブのリーグ戦で進められ徳山ク（山口）が、米子ク（鳥取）、松江ク（島根）を倒して6連勝を飾った。

▽男子1回戦

下関ク（山口） 34－13 倉吉ク（鳥取）
日新製鋼（広島） 45－7 津山高専（岡山）
境港市ク（鳥取） 27－7 松江ク（島根）
岩国ク（山口） 29－19 広島大（広島）
湧永薬品（広島） 40－7 中部ク（鳥取）
岡山教員（岡山） 41－23 江津ク（島根）
広島工大（広島） 32－15 関金ク（鳥取）
山口県教員団（山口） 31－19 津山ク（岡山）

▽同準々決勝

日新製鋼 34－15 下関ク
岩国ク 28－18 境港市ク
湧永薬品 38－13 岡山教員
山口県教員団 29－23 広島工大

▽同準決勝

日新製鋼 20－7 岩国ク
湧永薬品 40－12 山口県教員団

▽同決勝

湧永薬品 26（10－8 16－7）15 日新製鋼

全福井、氷見クかわす

第27回北陸3県総合競技大会ハンドボール競技は、6月25日富山県の氷見高グランドで行われ、男子は全福井が得失点差で地元の氷見ク（富山）をかわし優勝。女子は日本リーグの北国銀行（石川）が圧倒勝ちした。全福井は2連勝4度目、北国銀行は6年連続の優勝である。

▽男子リーグ

全福井 28（14－13 14－7）20 金沢あすなろク（石川）
氷見ク（富山） 14（5－8 9－6）14 全福井
氷見ク 21（9－8 12－11）19 金沢あすなろク

▽女子リーグ

北国銀行（石川） 34（17－0 17－0）0 全福井
有磯OG（富山） 16（9－4 7－8）12 全福井
北国銀行 35（20－2 15－5）7 有磯OG

男子は土浦一、辛くも勝つ

▼昭和55年度茨城県高校春季大会（5月・笠松運動公園）

▽男子準々決勝
土浦一 15－9 石岡一
竜ケ崎一 10－9 笠間
土浦三 18－10 日立一
岩井 19－12 水海道一

▽同準決勝
土浦一 13－10 竜ケ崎一
土浦三 9－8 岩井

▽同三位決定戦
岩井 18－13 竜ケ崎一

▽同決勝
土浦一 21－19 土浦三

▽女子準々決勝
竜ケ崎二 14－8 麻生
鉾田一 8－5 太田二
水海道二 11－6 下妻二
結城二 19－3 潮来

▽同準決勝
鉾田一 6－2 竜ケ崎二
水海道二 7－4 結城二

▽同三位決定戦
結城二 14－8 竜ケ崎二

▽同決勝
水海道二 10－4 鉾田一

一般は男女とも笠間ク優勝

▼昭和55年度茨城県一般クラブ選手権大会（5月・水戸）

▽男子準決勝
笠間ク 24－19 筑波ク
鉾田ク 15－9 麻生ク

▽同決勝
笠間ク 25（16－4、9－6）10 鉾田ク

▽女子決勝
笠間ク 8（3－3、5－3）6 桜芳ク

青森では野辺地二冠

▼第30回青森県高校春季大会（5月・五所川原高）

▽男子準々決勝
野辺地 27－10 五所川原
鰺ケ沢 15（延）14 青森南
青森東 24－5 青森
青森商 11－9 七戸

▽同準決勝
野辺地 20－16 鰺ケ沢
青森商 20－5 青森東

▽同決勝
野辺地 13（5－5、8－4）9 青森商

▽女子1回戦（2試合）
七戸 17－2 青森東
青森中央 13－3 三本木

▽同準決勝
野辺地 7－2 七戸
青森西 14－4 青森中央

▽同決勝
野辺地 12（7－3、5－7）10 青森西

小倉西、久工大付破る

▼福岡県高校春季大会（5月・小倉西高）

▽男子準々決勝
久工大付 23－9 小倉工
西陵 15－14 若松
福岡工 16－12 三池
小倉西 25－1 西南

▽同準決勝
久工大付 24－11 西陵
小倉西 22－9 福岡工

▽同決勝
小倉西 20（11－8、9－4）12 久工大付

▽女子準々決勝
筑紫女 27－3 福岡
若松 9－3 粕屋
東海大五 9－2 春日
香椎 12－5 浮羽

▽同準決勝
筑紫女 12－3 若松
東海大五 9－5 香椎

▽同決勝
筑紫女 11（3－2、8－1）3 東海大五

海自下総が全勝優勝

▼千葉県実業団春季リーグ（4月・丸善石油体育館ほか）

▽1部
日産石油化学 20－14 出光千葉
三井石油化学 21－15 丸善石油千葉
三井石油化学 30－24 出光千葉
丸善石油千葉 21－17 日産石油化学
海自下総 26－13 海自木更津
出光千葉 15－14 丸善石油千葉
三井石油化学 20－14 海自木更津
海自下総 37－11 日産石油化学
丸善石油千葉 26－13 海自木更津
海自下総 33－17 出光千葉
日産石油化学 27－20 三井石油化学
日産石油化学 21－15 海自木更津
海自下総 19－14 丸善石油千葉
海自木更津 20－18 出光千葉
海自下総 28－17 三井石油化学

【順位】①海上自衛隊下総5戦全勝②日産石油化学・三井石油化学3勝2敗④丸善石油千葉2勝3敗⑤海上自衛隊木更津補給所1勝4敗⑥出光千葉1勝4敗

【2部順位】①陸上自衛隊第一ヘリ団3戦全勝②東電千葉2勝1敗③海上自衛隊館山1勝2敗④陸上自衛隊下志津3敗

高校女子は島原農

▼長崎県春季選手権（4月・長崎工）

▽一般男子1回戦（1試合）
長崎大 22－12 大村航空隊

▽同準決勝
佐世保ク 29－16 長崎大
国加ク 20－14 海自佐世保

▽同決勝
国加ク 17（8－9、9－7）16 佐世保ク

▽高校男子準々決勝
佐世保西 18－9 佐世保北
国加 11－5 佐世保商
長崎工 24－11 西彼
日大高 19－11 長崎南

▽同準決勝
佐世保西 21－9 国加
長崎工 17－9 日大高

▽同3位決定戦
国加 22－15 日大高

▽同決勝
佐世保西 15（9－6、6－7）13 長崎工

▽同女子準々決勝
佐世保商 26－1 長崎北
佐世保北 15－3 佐世保西
日大高 13－6 有馬商
島原農 11－4 西彼

▽同準決勝
佐世保商 9－6 佐世保北
島原農 4－3 日大高

▽同3位決定戦
日大高 5－3 佐世保北

▽同決勝
島原農 7（5－2、2－3）5 佐世保商

中学大会記録

▼名古屋市中学校春季大会（4月・名古屋）

▽男子準々決勝
汐路 12－4 扇台
神沢 14－6 昭和橋
御幸山 15－7 港北
明豊 16－15 名塚

▽同準決勝
汐路 15－7 神沢
御幸山 15－12 明豊

▽同決勝
汐路 15（9－5、6－4）9 御幸山

▽女子準決勝
神沢 10－5 名塚
菊井 10－8 豊国

▽同決勝
神沢 12（6－4、6－3）7 菊井

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五五年六月二十五日印刷 昭和五五年七月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）

株式会社アシックス



一歩速く。

鋭いダッシュ、確かなストップがゲーム展開を有利にする。



アシックスタイガーのハンドボールシューズはスタートダッシュが鋭く速くでき、ストップが確実にできるシューズマシンです。だから どのような状況のプレーにも「一歩速く」スムースに動くことができます。従ってディフェンスを抜くことも容易でノーマークの状況をつくり出すことができます。また「攻」から「守」への転換もスムースで速くできます。
勝つために この一足を ぜひ。

asics TIGER
Handball Shoes
ハンドボールBK

ハンドボールBK（THH703） ■甲被は牛皮カラーベロア。 ■底はノンスリップ意匠底。 ■タコの吸盤の原理を応用した特殊ソール。
■レッド×ホワイト、ブルー×ホワイト ■サイズ 22.5～28.0cm